

【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 四日市 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	丈夫な体の育成	4
成果と課題	<p>① 戸外遊び、運動遊びの充実          〈園評価アンケート〉 A評価・・・「そう思う」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戸外で遊ぶことが好きになりましたか A評価 91%</li> <li>・ 体力がついたと思いますか A評価 87%</li> </ul> <p>○ 戸外遊びや運動遊びをしたくなる、場や時間の設定や誘いかけをすることで体を動かすことが好きになった。</p> <p>○ ボディペインティングや小麦粉粘土などの感触遊びをしたことで、開放感が味わえたり、ボディイメージを持ったりすることができた。</p> <p>② 自然に親しむ機会を持つ          〈園評価アンケート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然の変化に気付くようになりましたか A評価 75%</li> </ul> <p>○ 園の周りは自然が少なく、交通量も多いため、季節を味わいにくい。園内の樹木、畑、個人の栽培物など季節感を味わえるよう環境を整えた。植物の生長に興味を持ち、食べ物を大事に思うようになった。</p> <p>○ みかん狩り遠足では、山道を歩き、秋の自然に触れたり、大事に世話をしている方の思いに触れたりすることができた。</p> <p>○ 歩く経験や季節に応じた自然体験ができるよう園外保育を計画的に取り組んでいく。</p>	

重点 2	人とかかわる力の育成	3
成果と課題	<p>① コミュニケーション能力の育成          〈園評価アンケート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友だちが増えましたか A評価 91%</li> <li>・ 人の話を聞こうとしますか A評価 62%</li> <li>・ 相手にわかるように話したり、表現したりするようになりましたか A評価 45%</li> </ul> <p>○ 幼児の中の葛藤や、友だちと思いがぶつかる場面を、かかわりを考えられる学びの機会ととらえ、どうしたらいいか考えたり、相手の思いに気付いたりするようにしていった。自分の思いに折り合いをつけたり、思いを伝えたり、聞いたりするようになった。</p> <p>○ カリキュラムの中に意図的に、地域の人とかかわる機会を作った。感謝の気持ちや憧れの気持ちを持ち、かかわることの楽しさを味わうことができた。</p> <p>○ 今後も具体的な場面で伝え方を知らせていく。</p>	

重点3	子育て支援の充実 地域・家庭との連携	4
成果と課題	<p>①子育て支援の充実</p> <p>○子育て支援活動、遊び会では、職員も積極的に声をかけ、幼稚園教育を知ってもらう機会を作った。3歳児の遊び会で、在園児との交流や昼食交流を行い、入園にむけて園生活を知ったり、慣れたりする機会を持てた。</p> <p>②地域との連携</p> <p>○地域の幼稚園として親しまれ、地域の行事（四日市祭り、商店街の笹飾り、こどもの家まつり、ふれあいまつり）に親子で参加した。</p> <p>③家庭との連携</p> <p>○登降園の時に、話をする中で、園や家庭での様子を共有したり、子育ての悩みを聞いたりした。保護者の思いに寄り添い、保護者の方も幼稚園を楽しいと思えるように努めることができた。</p> <p>〈園評価アンケート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い・うがいをすすんでしますか A評価 62%</li> <li>・自分から日常のあいさつができるようになりましたか A評価 50%</li> </ul> <p>○「早寝、早起き、朝ご飯」などの生活リズムや食育、あいさつの啓発を行ったが、さらに保護者と一緒に取り組むために、具体的でわかりやすい啓発を考えていきたい。</p>	

重点4	教師の役割 教育活動の充実	4
成果と課題	<p>①やってみたくなるような心が動く遊びの充実を図る。</p> <p>〈園評価アンケート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園の生活や遊びが楽しいと言っていますか A評価 95%</li> <li>・遊びの種類や生活体験がふえましたか A評価 95%</li> </ul> <p>○明日の環境をどうしようかなど具体的に考えたり、遊びや幼児にねらいを持ってかわったりすることで、幼児の興味・関心にあった遊びを楽しめる経験ができた。</p> <p>②就学前教育の充実を図る。</p> <p>○学びの一体化研修（地域の保育園・小学校・中学校の職員との研修）で公開保育を行った。その事後研では、幼稚園教育が大切にしていることを伝え、遊びの中の学びがどう小学校につながっていくのか知ってもらうことができた。また、そこでの学びを保護者にも伝えることができた。今後も他校園と連携し、保育内容の充実を図りたい。</p>	

## 2 改善方針

重点①	意図的に自然と出会える機会を作ったり、設定したりしていく。
重点②	話す力がつくように、話したくなるような心動く経験や、聞いてくれる大人や友だちの存在を大事にして、話すことが楽しいと思える環境を作っていく。
重点③	生活リズム、食育、あいさつに取り組めるように、講習会や参観などを行い、保護者の方と一緒に、取り組める方法を考えていく。 園で大切にしていることを発信し、知ってもらう機会をより作っていく。
重点④	園内研修の定例化や内容の工夫を行う。

【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 橋北こども園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	コミュニケーション力のある幼児の育成	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心のある遊びを思う存分する中で、時には葛藤やつまずきを経験し、その場面場面で保育教諭は友だちと一緒に気持ちを聞き取ることが大切にしてきた。一人一人の思いをしっかりと受け止め、じっくりと話を聞くことで信頼関係ができ、保育教諭や友だちの中で、安心して自分の気持ちを伝えようとする姿が見られるようになってきた。また、自分の思いを聞いてもらえる心地よさを味わえるようになった。しだいに相手にも思いがあることに気づいて、相手の気持ちを聞いて知ろうとする思いやりの気持ちも育ってきた。</li> <li>・一人一人に応じて友だちや保育教諭と会話を楽しんだり、絵本を一緒に楽しんだりしながら、単語のみでなく文章として伝えられるように援助や指導を心がけた。伝わったり分かってもらえたりする喜びをベースに、自分から相手に伝えようとする姿が育った。</li> </ul>	
重点 2	幼児の姿・発達に合った教育・保育の充実	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月同学年の職員で子どもの姿を出し合ったり、教育保育計画を協議立案し、修正と反省見直しを丁寧にするように心がけた。カリキュラムや一人一人の発達を確認しながら、次への展望を話し合うようにした。しかし、職員間の共通認識や連携にさらなる工夫が必要と思われる時もあった。その都度反省修正をして、次の活動や行事に生かせるように、心がけていきたい。</li> <li>・昨年の実践をもとに、環境設定や約束事等も見直しをもって、教育保育を進めていく話し合いや会議ができた。園庭の使い方や午前中のグランド（園外）使用など工夫が進み、遊びや活動の広がりが見られた。特に、園庭に小さい学年と一緒にいる時には、安全面でもどうしたらよいのかを年長児と共に考える場面を丁寧にもつようにした。今後、0歳児や1歳児2歳児が、安全に園庭を使える工夫が必要である。</li> <li>・園内の限られた自然環境を補てんできるように、栽培活動や保育室内の飼育活動に工夫をした。しかし、近くの公園等へ出かける内容と回数には、もっと改善できたと思われる。</li> </ul>	
重点 3	小・中学校、地域との交流の充実	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校との交流は、体育祭の種目にリハーサルと当日一緒に参加したり、文化祭を参観したりした。また、中学生がこども園へ職業体験や家庭科保育実習に来て、交流できた。小学校へも5歳児が一年生交流に出向くなどした。</li> <li>・地域の小学生中学生と一緒に遊んでふれあう中で、親しみや憧れの気持ちも育った。中学校へ散歩に行かせてもらう時期を、交流の前後にもてると、子どもたちにはより身近に感じられるので教育効果がある事に気づいた。</li> <li>・学びの一体化研修で、具体的な姿を出し合って話し合う事が、より具体的な子どもへの教育実践につながった。</li> <li>・地域の老人福祉施設訪問や、祖父母参加の行事を経験することで、色々な人とかかわる力へつながり、様々な人の温かさを感じる事ができた。</li> </ul>	

重点 4	子育て支援の充実	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当園には、併設型子育て支援センターと一時預かり保育の子育て支援事業がある。それぞれの参加者や子どもたちに、声をかけたり、在園児との交流の機会を大切にした。こども園の多様な機能をふまえて話しやすい雰囲気を作り、来園者の支援や相談にのるよう心がけている。</li> <li>・在園児と子育て支援に来園した親子とが交流をもてるように、定期的に活動や行事をもっている。そのことで、在園児たちも、来園者に親しみの気持ちで接するようすが見られた。</li> <li>・保護者には、たよりやホワイトボードや直接話してその日の保育等を伝え、保護者に安心感をもってもらえるよう丁寧なかかわりをしている。園児たちも、挨拶をして来園者に親しみの気持ちをもてるようになってきた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・それぞれの打ち合わせを丁寧にもち、職員間の共通認識で確認し合えるようにする。また、その年の園児に合わせて、カリキュラムもその都度検討改善していく。
- ・園庭が狭いことにより、0歳児1歳児2歳児の学年は大きい園児がいる時には、園庭では遊ぶと危険だった。0歳児1歳児2歳児が、園庭で安心して十分遊べる時間の確保があると反省した。大きい学年がグラウンドへ行き、週の内の曜日分けや時間分けを一定にして、0歳児1歳児2歳児が遊べる日や時間を工夫する。
- ・三滝公園や東新町公園等近隣の公園を日常的に散歩のコースにできるようになってきたが、季節や行事との兼ね合いで、なかなか出られないこともあった。園外保育を計画的に検討しながら、様々な自然体験をできるだけ多くもてるように、また5歳児は少し遠い北条公園へも歩く経験を多くもち、体力の向上を意識して、1年間の教育保育計画を組み立てる。特に、中学生との交流と中学校への園外保育の時期を、効果的に組み立てる。

【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 富田 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	健康な体づくりの推進	4
成果と課題	<p>・ 4歳児と5歳児が1クラスで過ごすことで、4歳児にとっての刺激が増え意欲につながった。5歳児も4歳児の頑張る姿に刺激されて、色々なことに粘り強く取り組む姿が見られ、互いに刺激を受け合えるのはとても良かった。今後は年齢別の発達保障の工夫や園庭を有効活用して経験を広げる工夫を考えたい。</p> <p>・ 生活リズムについては実態調査やチェックシートを活用することで子どもと保護者が一緒に取り組む姿勢が見られ、意識化されたことで生活リズムが確立しつつある。今後も楽しく、生活リズムが身につくように工夫したい。</p> <p>・ 子ども達とも話し合い、栽培活動と連動した食育や『赤』『黄』『緑』の3つの栄養素をバランスよく取るようにした。給食時や弁当・給食参観でもバランスの良い食事について知らせ、おたよりやホームページでも啓発してきた。徐々に子ども達の食欲が増し、楽しく、おいしく食事ができるようになってきている。今後は食育だよりや保護者参加の栽培活動などの工夫をしたい。</p>	
重点 2	地域・保護者との連携を密にした教育の推進	4
成果と課題	<p>・ 年度当初より保護者との連携を密に取り、意見を取り入れ自由参観日を設けたり、PTAの活動を全保護者で分担するように共に考えあうことで円滑な園運営が行えた。おたよりもより読みやすくするために意見交換ができて良かった。</p> <p>・ 子ども達の状況をリアルタイムでホームページに載せたり、おたより(クラスだより・園だより)で、具体的に知らせたりすることで、より分かりやすく伝えることができた。</p> <p>・ 学びの一体化の取り組みも充実しており、地域の主任児童委員やセンター等関係機関との連携も十分に取れている。また、地域活動も活発に行われており、園としても積極的に地域行事に参加し地域に根差した教育をすすめている。納涼祭、地区の運動会を子ども達も楽しみにしている姿がある。</p> <p>・ 十四川やせせらぎ公園への園外保育、地域への散策を計画的に取り入れることでより地域に親しみが持てるように今後も取り組みを進めたい。</p>	
重点 3	ふれあい ささえあい、ともに輝く子どもの育成	3
成果と課題	<p>・ 一人一人の良い面を認め、周りに知らせるように努めたり、日々の生活の中で思い切り遊びを楽しめるように工夫することで『やってみよう』という意欲が高まり楽しく遊び合う姿が様々な場面でみられるようになった。また、楽しく遊ぶ中で自分の思いを出し合える場を作ったことでお互いの気持ちに気付くことも多くなり友だち関係が深まっていった。</p> <p>・ 研修を通して分析したり、子どもの成長について発達を促せるような方法についての意見交流が活発に行え良かった。</p> <p>・ 園内研修のほかに関係機関との連携も行い、研修を重ねたことでそれぞれの職員の視野が広がり、スキルアップにつながった。今後もより効率的に学び合える職員集団の形成に向けて知恵を出し合い、研修体制の改善をしていきたい。</p>	

## 2 改善方針

### <重点1>

- ・職員のスキルアップのために研修の還流報告や教材研究、手遊びやふれあい遊びの紹介研修の時間も確保し楽しみながら保育を創造していけるように工夫しより多様な保育を展開したい。
- ・園庭の有効活用や思い切り体を動かせる楽しい遊びを創造し取り入れたい。
- ・栽培活動と連動した食育計画を保護者ととも考え、実践することでバランスのとれた食事を意識したり、子ども達の食の幅を広げられるような工夫をしていく。

### <重点2>

- ・ホームページや園だより、クラスだよりにより保護者の意見を取り入れながら内容の充実を図っていく。保護者参加ができるような企画も考え、実践していく。
- ・園外保育を計画的に取り入れ地域の自然や歴史に親しみながら歩く力をつけたり、地域への愛着の気持ちを育てていく。園外保育の記録を取りお散歩マップの作成をしていく。
- ・地域の豊かな教育力を今後も継続して活用したり、地域の活力を園運営にも反映させ、地域行事にも参画しながら地域に根差した幼稚園の教育をめざしていく。

### <重点3>

- ・縦・横の連携を十分に取り、一人一人の幼児をより多面的に肯定的に見ながら保育を展開できるように工夫する。
- ・園務や出張、研修に時間を取られがちであるが年間計画、月の計画に園内研修や打ち合わせの時間を確保することで計画的に研修が進められるようにする。
- ・研修が充実するように研修方法も色々と工夫して実践し、評価、反省を次の実践に十分にかかし、一人一人の発達保障をより確実なものにしていく。
- ・写真や映像を活用した研修、エピソードを出し合っの園内研修を取り入れ実践していくことで一人一人の発達の姿をより具体的に検証していく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 海蔵 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	遊びを通しての「学び」の充実	4
成果と課題	<p>・自ら選んでする活動の中で、教師は幼児一人一人のアイデアやイメージを丁寧に受け止めてきた。そして、遊びを広げていくための場の保障や教材の提案などを心掛けてきた。そうすることで、4歳児は友だち同士誘い合い、刺激を受け合いながら、意欲的に遊びを展開し楽しむ姿につながった。5歳児も、友だちと話をしながら遊びに必要なものや場を作って生き生きと遊んだ。様々な形の積み木を組み合わせ、コースを作る遊びでは、よく考え、工夫して組み立てることを繰り返し楽しんだ。その中で『思考力』や『図形などへの関心・感覚』『協同性』も育まれた。保護者のアンケートにも「考える力・集中力がついた」などの意見が多かった。</p> <p>・この時期に、「こんなことを経験してほしい」という願いを職員間で伝え合い、提案し合いながら、その都度、環境を変え、多くの経験ができる遊び・活動を工夫して取り組んできた。保護者アンケートでも「遊びの種類や生活経験が増えましたか」の項目で98%が「そう思う・おおむねそう思う」と回答した。日々の保育の中で、幼児の姿について職員間で共通理解を図ってきたことが成果につながっている。</p> <p>◎今後は、どの遊びの中でも子どもはいつも「学び」に触れていることを念頭におきながら関わり、学びの瞬間を見落とさないようにしていく。また、幼児の発達に合ったかかわりや教材の効果的な出し方、環境の工夫などを園内でさらに学び合っていき取り組みや様子を、保護者や地域へ発信する手立てを探っていく。</p>	

重点2	コミュニケーション能力（豊かにかかわり合おうとする力）の基礎を育成	4
成果と課題	<p>・1学期、4歳児は自分の思いを通したい姿や、一人で遊ぶ姿が見られた。そこで、教師が仲立ちとなり互いの思いを伝えたり、どのように相手に伝えるといいかを具体的に知らせてきた。友だちとのつながりを意識してかかわってきたことで、幼児同士、声をかけ合い、遊びを一緒に楽しむ姿が増えてきた。</p> <p>・5歳児についても、教師が一人一人の幼児と向き合い、気持ちを受け止めたり、認めたりしていくことで、自分の思いを表現し、伝えようとする姿が増えた。また、教師とのかかわりだけでなく、友だちやクラスみんなで互いを認め合おうとする姿につながった。トラブルがあった時も友だちのことに興味をもって、幼児同士最後まで見守る姿が見られる。保護者アンケートでも「自分の思いを伝えようとしたり、友だちの立場になって考えたりするようになった」との意見が多かった。</p> <p>・人の話をしっかりと聞くことの大切さを、その都度伝え、教師自身も子どもの話をゆったりとした雰囲気の中で聞くように心掛けてきた。「聞いてもらえた」という経験が子ども達の聞く姿につながっていった。</p> <p>・挨拶については、毎朝、言葉や目を交わす心地よさを十分に伝えてきたことで、挨拶をする態度が身についてきた。この姿は、2学期に行われた公開保育で多くの評価を得た。</p> <p>◎今後も、目を合わせて話をすることの大切さを意識して取り組んでいく。</p>	

重点3	健康な心と体を育む活動の推進	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当園の広く充実した園庭の環境を生かし、鬼遊びやボール遊び、固定遊具など戸外で、思う存分、体を動かした遊びを保障することができた。5歳児が生き生きと遊ぶ姿に刺激を受け、4歳児も戸外遊びが好きになり、意欲的に遊具に挑戦していく姿も見られた。保護者アンケートでも「戸外で遊ぶことが好きになりましたか」の項目で98%が「そう思う・おおむねそう思う」と回答した。また、巧技台や跳び箱などを組み合わせてサーキットコースを設定することで、いろいろな動きを経験することにつながることができた。</li> <li>・竹馬や竹ぽっくりに挑戦する中で、諦めず根気よく取り組む姿が見られた。大きな達成感を味わい、その後の生活でも自信をもって行動する姿が多くなった。そして、保護者と共に幼児の成長を喜び合うことができた。</li> <li>その他にもサッカー教室や、親子での体操など外部の講師を招いて体を動かす機会を取り入れ、体を動かす楽しさを味わえるようにした。</li> <li>・食育、栽培活動を計画的に取り入れ、地域の方の協力も得ながら、野菜の生長に興味を持ったり、収穫を楽しみにしたりして育てることができた。また、収穫した野菜でクッキングをしたり、家庭に持ち帰ったり、幼稚園からレシピを配布したりした。そうすることで弁当のおかずになったり、家での調理につながったりと、園と家庭が連携して取り組むことができた。</li> <li>◎今後はさらに、園外保育を年間を通して取り入れ、歩く力を付けるだけでなく、自然に触れたり、自分たちの地域を知る機会としていく。</li> </ul>	

重点4	地域との連携と子育て支援の充実	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の窯業研究室で、自然を感じられるヨモギ摘み、虫とり、つくしとりなどの体験や、万古焼の窯の見学を行った。保護者と一緒に、万古焼体験もして、地域の地場産業を知り、親しむことを大事にしてきた。</li> <li>◎今後も、この意義を大切に、継続していく。</li> <li>・また、年間を通して地域の方や保・小・中との交流をもち、地域に親しみをもつ機会としてきた。小学校の給食体験では、5年生との交流ができ、優しく接してもらったり、教えてもらったりして、小学校生活に期待を抱くことにつながられた。</li> <li>・保護者との連携については、降園時に保護者と話をしていく中で、日ごろの幼児の姿を伝えたり、保護者の思いを聞いたりして、保育に活かしていくことができた。また、クラス便りなども写真を掲載して工夫し、より保育内容が伝わるようにした。子ども達のために、大変協力的な保護者が多い。</li> <li>◎今後、保育参観の機会も作り、幼児期に大切なことや成長した喜びを共有しながら連携に努める。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる遊びや学びの充実に向け、教材研究や発達段階に応じたかかわり、環境構成など園内で学び合っていく。</li> <li>・幼稚園の取り組みや、幼児の成長した姿などを掲示物で見える化し、保育参観の機会も持つことで、保護者の理解、保育内容の質の向上へとつなげる。そして、</li> <li>・園外保育を年間を通して、計画的に取り組んでいくことで、地域とのつながりを大切にしたり、自然の不思議さや季節の移り変わりに気付く機会としたり、歩く経験を増やしたりしていく。</li> </ul>
--



【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 泊山 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	遊びを通して体験を豊かにする学びの充実	3
成果と課題	<p>○幼児の発達や時期に合わせ、園庭に幼児が遊びたくなるような環境を設定したことで、積極的に戸外に出て遊ぶ幼児が増えた。今後は巧技台や跳び箱、ジャンピングなどのバランス遊びや様々な遊具で遊ぶ機会を広げていきたい。</p> <p>○幼児一人一人が今何を楽しんでいるのか、どのような力が必要なのかを考え、教材準備を行い、環境構成を工夫してきた。幼児自らが興味をもち、夢中になっている姿など主体性を大切にしてきた結果、自分で考えたり、友だちと相談し合ったりする姿につながってきた。遊びの中で学んだことが次の遊びにつながっている姿も見られた。今後も職員間で意見を出し合い、幼児にとって魅力的な遊びができるように、環境構成やかかわりを工夫していきたい。</p> <p>○園内の自然や栽培活動に興味を持ったり、自然物を使った遊びを楽しめるようにし、自然への気づきや心を動かされる体験を大切にしてきた。また、栽培と運動した食育活動を進めてきたことで、幼児の食の幅も広がり、意欲的に食べようとする幼児の姿が増えてきた。次年度にもつなげていきたい。</p> <p>○園外保育を実施し、自然に触れながら楽しく園外に出かける経験ができた。また、歩く力や交通ルール、公共のマナーなども身につけていくことができた。今後も計画的な園外保育の実施に向け、職員が地域のことをより知り、取り組みを続けていきたい。</p>	
重点 2	高い自尊感情を持つ幼児の育成	3
成果と課題	<p>○一人一人の幼児の経験にはちがいがあり、自信のなさが感じられる姿もあったので、まずは教師と一緒に思い切り遊びを楽しむ中で、幼児の気持ちを受けとめるようにしてきた。その結果、教師や周りの幼児に受け入れられる心地よさを感じ、自分の思いを表現できるようになり、挨拶を交わし合う姿も多く見られるようになった。</p> <p>○話を聞く力について、最後まで話を聞くことや自分に話されているという意識をもち、言葉のやり取りができるように、目と目を合わせてから話をするようにしたり、相手に自分の話を聞いてもらう嬉しさを感じられるようにしたりするなどして、その都度、聴く力の育成に取り組んできた。職員間でも共通認識をしながら今後も引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>○絵本の読み聞かせの機会を通して、感性を豊かにできる取り組みを続けている。幼児の心に響く絵本と出会える環境を工夫していきたい。</p>	
重点 3	学び合い、聞き合い互いに高めあえる職員集団の形成	3
成果と課題	<p>○園内研修では、他のクラスの状況や保育の工夫の仕方を知ったり、学んだりする機会になり、より多面的に幼児一人一人の姿をとらえ、指導の方法を考え合うことができた。また、エピソード記録より、主体的に遊ぶ姿を捉えながら発達や時期に合った遊びや活動を振り返り、遊びの深まりやつながりに役立てることができた。</p> <p>○今後は学年間での学び合い・交流の機会も増やし、計画的に研修が進められるような工夫をするとともに、職員間での報告・連絡・相談を徹底し、確実な共通理解を図っていきたい。</p> <p>○今年度は他園職員との合同研修を取り入れ、実施してきた。教師同士の意見交流が深まり、具体的な保育の手立てを積極的に学び合おうとする高まりが感じられた。今後も時間や研修の形態を工夫しながら、幼児の豊かな成長につながる保育の質を高めたい。</p>	

重点 4	地域・保護者との連携を密にし、協働する教育の推進	3
成果と課題	<p>○年長児は園外保育（梅ちぎり）で南部丘陵公園に行き、地域の方と一緒に活動した。また、年少児の園外保育も発達に応じて、計画的に取り入れてきた。今年度は市民センターでの絵本の読み聞かせにも参加し、地域の方に幼稚園を知ってもらう機会にもなった。地域の自然の豊かさや喜んで活動する幼児の姿など、その都度伝えながら、自分が育った町の良さに気づき、地域行事にも家庭とともに参加できるように働きかけたい。</p> <p>○保護者の立場で思いを聴き、積極的にコミュニケーションをとるよう努めた。お互いに話すことで子育ての悩みを共有し、共に考える機会ができた。また、外国籍の保護者には、わかりやすく伝達する方法を考えるなど個々に応じての細やかな配慮に努めた。家庭との連携や相互理解を大切にしていきたい。</p> <p>○園運営を進めたり、教育活動を充実させたりするためにも、園づくり協力者会議の委員さんと連携を図り、会議で話し合われたことを園内に還流し、反映していきたい。</p> <p>○園の教育活動の内容やねらいをわかりやすく地域や家庭に発信していくには、より努力が必要である。今後は発信の回数や方法など工夫し、見やすくわかりやすい発信方法を工夫していく。</p>	

## 2 改善方針

<p>○広い園庭をより有効的に使えるように移動遊具の使い方や組み合わせなどを工夫し、幼児が遊びたくなる環境作りに取り組む。教材研究や公開保育などの研修の機会を活用し、一人一人が主体的に遊べる保育の資質向上を目指す。</p> <p>○計画的に地域に出かけ、自然とふれあうことを通して、地域の自然を生かした教育、食育の充実を家庭とも連携をとりながら、推進していく。</p> <p>○きめ細やかな幼児理解に努め、日々の記録をもとに園内研で提案をし、全職員での共通理解を図る。また、計画的に実践検討を行う時間を確保し、研修の充実に努めるとともに、学年を越えた研修・交流の機会を増やしていく。</p> <p>○いつでも報告・連絡・相談ができる雰囲気づくり、長期的な見通しを持った仕事のあり方を考え協力し合える職場環境を作る。</p> <p>○全職員で共通認識のもと、保護者・地域・関係機関と連携をとり、一人一人の幼児が安心して園生活を送れるようにする。また、地域、保護者とともに協働できる活動や地域の保育園・小学校・中学校とも連携や交流を計画的にすすめていく。</p> <p>○園の教育活動の内容を地域や保護者の方へホームページ、園だより、懇談などの機会を通してよりわかりやすく発信する取り組みをすすめていきたい。</p>
--

【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 内部 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	健康な心と体の育成	4
成果と課題	<p><u>○生活習慣の確立について</u>            ・ 定期的におたよりなどで「早ね・早おき・朝ごはん」の取り組みを呼びかけり、早おき君に来てもらい、早起きの大切さを知らせていった。今後も幼児、家庭への啓発活動を行い、協力して取り組んでいく必要がある。</p> <p><u>○食育活動について</u>            ・ 野菜の栽培・収穫・調理の活動を通して、幼児の五感に働きかける取り組みを行うことができた。楽しい雰囲気の中、みんなと一緒に食べることで、苦手な食材も食べてみようという意欲がみられるようになった。</p> <p><u>○体力づくりについて</u>            ・ 竹馬、鉄棒、縄跳びなど、幼児の刺激や目標となる環境づくりを工夫したところ、何度も挑戦しようとする幼児の姿がみられた。サーキット遊びなど様々な動きができる取り組みを工夫していきたい。            ・ 地域の里山に園外保育で行くことができた。今後は回数を増やし計画的に取り組めるようにする。</p>	
重点 2	コミュニケーション力の育成	3
成果と課題	<p><u>○仲間づくり・聴く力を育てる取り組みについて</u>            ・ 幼児が自分の思いを表現できるように、丁寧に受け止めてきた。思いがうまく言葉にならないところでは、教師が架け橋となりながら、幼児の思いをつないでいったところ、表情も豊かに安心して過ごす姿がみられるようになった。            ・ 幼児同士が話し合う場や時間を丁寧にいかかわっていった。相手の気持ちに気づいたり、相手が気持ちよく感じる「伝え方」や「聞き方」を意識して取り組んだことで、お互いの思いや考えを理解しようとする姿がみられるようになった。</p> <p><u>○あいさつの推進について</u>            ・ 自ら、朝のあいさつをする幼児が増えていった。地域の方が来園した時にも、自然にあいさつがきでるようになった。あいさつを「だれに」「どうしてするのか」というところも伝えていったことで、心を込めてしようとする幼児も増えてきた。</p>	
重点 3	学びにつながる意欲の育成	3
成果と課題	<p><u>○環境構成や指導方法の工夫について</u>            ・ 自然とのかかわりや遊びなど、実体験を通して、幼児は様々な気づきや発見、工夫をしてきた。その都度、教師が心をとめ、共感したり、一緒に考えていく中で幼児が主体的に活動する喜びを感じることができた。そのことで、幼児が自分の考えを自信を持って伝え、それについて友だちと考えあう姿もみられるようになった。            ・ 幼児の意欲がふくらむような、教材や空間を工夫・確保していったことで、集中して取り組んだり、試行錯誤を楽しむ姿がみられるようになった。</p> <p><u>○学ぶ喜びや充実感につながる取り組みについて</u>            ・ 指導主事訪問や公開保育などの園内研修を通して、日々の保育を振り返り、改めて教師の言葉がけや環境構成について職員で考え合うことができた。            ・ 教師自身が、この場面がどんな学びにつながるかを意識や見通しを持っていかかわっていくことができるようにしたい。</p>	

重点4	保護者・地域との連携・協働	4
成果と課題	<p>○子育ての推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園や家庭での様子を保護者とできる限り共有できるように努力した。写真を使ってドキュメンテーションを作成するなどの工夫を行い、園活動をわかりやすく伝えるようにした。保護者ボランティアの活動（畑の活動・遊び会・絵本の修理）を通して、園活動への参画・理解につながった。</li> </ul> <p>○地域との交流について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年の「内部地区はげまし隊」との活動に加え、今年度は「うつべカフェサロン」訪問で地区の高齢者の方々と触れ合う機会を持つことができた。また、内部駐在所や「内部地区すいせんの会の方と一緒に活動させていただく中で、地域とのつながりを作り、幼児は地域への親しみの気持ちを持つことができた。今後は、園の方から地域を元気にする取り組み、地域のためにできることはないかを考えていきたい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間でお互いに保育を見て、検討する園内研修や他園と協力する方法など、研修の持ち方の工夫をしていく。その中で、改めて幼児の主体性を育む自ら選んでする活動のあり方について考えていきたい。</li> <li>・保育の中で絵本の活用方法について、幼児と職員だけでなく、保護者も巻き込んで取り組んでいきたい。</li> <li>・園行事について、幼児に何を体験させたいのか、そのためにどのような内容にするとよいのか、やってみてどうだったかなどをじっくり考えあう時間を工夫して作っていきたい。園行事の精選を含め、職員間で意見を出し合い、技術面でのスキルアップにつなげていきたい。</li> <li>・日々の生活や主体的な遊びの中に「学び」があることやその重要性について、新教育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」などをまじえながら、園生活で育てている力を保護者にわかりやすく発信していく方法を考えていきたい。</li> </ul>
---

## 【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 川島 幼稚園

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	健康でしなやかな心と体を育てる	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広い園庭や固定遊具を使って、体を動かして遊ぶ楽しさを感じることができた。テラスに簡単なアスレチックコースを作り、日常的に体を動かせるようにしたことで、幼児も用具の置き方や遊び方を工夫するようになった。</li> <li>・ 安全面に配慮し、年間を通してホールや園庭に運動遊びができるような環境を設定していきたい。</li> <li>・ 地域の方や、保護者と共に作った竹馬・竹ぽっくりを年間を通して利用し、運動会や老人クラブ交流会等で披露する機会を持った。また跳び箱や縄跳びなどの運動遊びに取り組む中で、幼児に合った援助の仕方を考え、幼児なりの目標を持てるようにかかわってきた。それらを通して、苦手意識のあった幼児も意欲的な姿を見せ、自信をつけることができた。</li> <li>・ 地域の公園や最寄駅を利用した園外保育を多く行ったことで、歩く力や体力がついた。また、自然豊かな地域の環境を活かした活動ができた。課題として、経験したことが他の活動や遊びにつながっていくように、遊びの中で何が育っているのかを職員が話し合い、園内の環境を再構成していく。</li> <li>・ 栽培活動を通じて、様々な野菜に興味を持ち、収穫する喜びや調理に参加する楽しさ、みんなで一緒に食べる喜びにつながった。偏食のある幼児も食べてみようとする姿が見られるようになった。</li> <li>・ 自分の体に関心を持てるように、絵本や三色表の活用、食育に関連する遊びを取り入れるようにする。</li> </ul>	
重点2	様々な経験を通して、自分で考え行動する力や人と関わる力を育てる	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老人クラブや未就園児との交流、他園との交流など、様々な活動を取り入れ、人とかかわる機会を多くもつことができた。いろいろな人とのかかわりや活動を通して、楽しさや思いやりの気持ちを持つことができた。</li> <li>・ 遊びや活動の中で、自分の思いを出せるようにし、相手の思いを聞こうとする機会や話し合いの場を作ってきた。そうする中で相手の思いに気づいたり、折り合いをつけたりする姿に変わってきた。</li> <li>・ 園内研修で振り返りをする中で、幼児間の関係に気づき、手立てを考えてきた。今後も友だちのよさに気づけるような遊びや活動を取り入れ、幼児間の関係を細かに見ていく必要がある。</li> <li>・ クラスの中で、自分の意見を発表する機会を作ったことで、自分なりに考えて伝えることができるようになった。</li> <li>・ 専門機関と連携し、個別の配慮について具体的な手立てを考え、実践してきた。幼児の内面や背景について話し合うことで、幼児へのかかわりを見直すきっかけになった。</li> <li>・ 混合クラスとして4、5歳児と一緒に過ごす時間を増やしたことで、学年を越えてかかわって遊ぶ姿が見られた。年長児へのあこがれの気持ちを持ったり、年少児へのかかわり方を考えたりするなど、互いを思いやる気持ちが持てた。</li> </ul>	

重点3	家庭や地域との連携を深め、教育内容に反映し、その充実を図る	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日の送迎時に、園での幼児の姿や家庭での様子について話し合うように努めてきた。また、職員間で保護者の思いに寄り添えるように情報を共有してきた。さらに子育てについて考え合っていけるよう、保護者の思い・悩みに寄り添いながら連携を深めていく必要がある。</li> <li>・ 保護者が誕生会に参加したことで、自分の子だけでなく周りの子どもと一緒に遊ぶ機会を持ったり、自分の子への思いを話してもらったりし、職員も子どもへの思いやかかわりを改めて学ぶ機会になった。</li> <li>・ 災害時の避難方法について、保護者と共通認識をし、安全教育をすすめることができた。その中で、幼児も自分の身を守る行動の仕方を知り、実践していく姿につながった。</li> <li>・ 地域の方との交流や未就園児とのふれあいの場など、様々な人との関わりの場を定期的にもつことができた。少人数で過ごす幼児にとって、いろいろな人との関わりを経験したことで、遊びの幅が広がった。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園庭、ホールなどを利用したアスレチックコースを計画的に設定できるように、毎月SPDCAサイクルをもとに園内の環境を生かした遊びについて園内研修を行う。</li> <li>・ 遊びに夢中になっている幼児の姿、遊びから学びにつながる場面を意識した写真を撮り、園内研に活用する。</li> <li>・ 幼児の姿をもとに家庭と連携したことや、保護者の願いなどを職員間で共有し、具体的な手だてを考えていく。</li> <li>・ 少人数の中で様々な経験や遊びの充実を図っていくために、混合クラスとしてかかわり合えるような運動遊びやふれあい遊び、わらべうたなどをさらに工夫して取り入れていく。</li> </ul>
--

【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 神前幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	コミュニケーション力を育む教育実践	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 挨拶の心地よさを感じられるよう教師が率先して行い関わったことで、自ら挨拶が行われるようになってきた。</li><li>・ 教師がしっかりと幼児の思いを受けとめ、自分の思いを素直に言葉で伝えられるように関わったことで、少しずつ様々な思いを表現する姿が育った。また、思いが伝わる嬉しさや、その場や状況に応じた言葉を学ぶ機会となった。</li><li>・ かかわりが必要な場面もあるので、今後も遊びの中で豊かな言葉を育んでいく。</li></ul>	
重点 2	共に育ち合う教育実践	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を育む教育内容について、園内研修を持ち、日々の保育に生かしてきた。その結果、友だちに共感してもらえる喜びを感じられるようになってきている。</li><li>・ 幼児が自分で考えて、遊びや活動に取り組めるように安心して過ごせる環境を作ってきたことで、意欲的に挑戦しようとする姿が育ってきた。</li><li>・ 新しい事に挑戦する気持ちや勝敗のある遊びなどを通して、葛藤する経験を増やしていきたい。</li><li>・ 混合保育の中で、4歳児が5歳児にあこがれの気持ちを持ち、5歳児が4歳児に対して優しくかかわる姿がみられた。しかし、各年齢にあった、発達保障の面では難しいところもあった。</li></ul>	
重点 3	健康な心と体を育む	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全身を使った遊びを取り入れ、戸外で体を動かして遊ぶ中で体を動かす楽しさを味わい、健康な体を育むことを意識してきた。また、豊かな自然に囲まれた園庭が戸外で遊びたい意欲を掻き立て、のびのびと遊ぶことができた。</li><li>・ 野菜の栽培や給食、収穫祭を通じて、様々な食材に触れ、苦手な物も食べるようになってきた。</li><li>・ 「赤・黄・緑のゲンキッズ」の話をしたことで、食材の分類に興味を持ち、苦手な物も食べられるようになってきた。</li><li>・ 生活習慣については園内でしっかりと取り組み、定着してきた。</li><li>・ 教育アンケートで、「幼稚園ではしているが、家庭ではしない」、または「言わないとできない」幼児が数人いた。今後は自ら必要性を感じて取り組んでいけるようにしていく。</li></ul>	

重点 4	人権同和教育の充実	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児一人一人が大切な存在であると感じられるように個々に応じて、丁寧に関わってきたことで、友だちの思いに共感できる姿が育ってきた。</li> <li>・ 友だちの気持ちに思いをはせたり、声をかけたりする心が育ってきているが、思いはあっても行動に出せない姿があるので、幼児同士で思いを出し合えるように見守っていく。</li> <li>・ 懇談会や研修会に参加し、園内で職員に還流し、もう一度考えてみる事ができた。また、自分自身を振り返り、人権感覚を高める事ができた。</li> <li>・ 職員間のつながりの面では、何度も園内研修を重ね、自分の思いを伝える事ができた。</li> <li>・ 保護者懇談会を保護者と一緒に企画し、『おしゃべり会（人権・同和问题懇談会）』を年4回開催し、差別について一緒に考え合えた。</li> </ul>	

重点 5	家庭や地域と共に進める教育活動の充実	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方の畑を借りて、栽培活動を行ったり、地域の行事(盆踊り、小学校の運動会や文化祭)などに参加したりして、豊かな体験活動の充実をはかった。</li> <li>・ 保育園児や小中学生、地域の人との交流の機会を設け、様々な人との関わりや触れ合いを大切にしてきた。</li> <li>・ 年5回の保育参加、親子ふれあい教室など、保護者と一緒に活動する機会を設け、園の教育活動の周知や共に進める教育活動の充実を図った。</li> <li>・ 年度当初に保護者に『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の説明をし、幼児の姿だけでなく、なぜその姿があるのか、どうしてその力が育ってほしいのかについて具体的に知らせるように心掛けた結果、園のホームページ、園だより、クラスだより、保護者参加の行事に写真などを用いてパワーポイントで説明する等、幼稚園教育について家庭や地域に発信することができた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も、日々の保育の振り返りを職員間で共有し、翌日の保育に生かしていく。</li> <li>・ 子どもの意欲を引き出すための環境構成の工夫や教材研究を今後も続けていき、子どもの発達に合った保育内容を検討していく。</li> <li>・ 共に育ちあう教育実践では、少人数の中での育ちを保障する保育内容の工夫を引き続き考えていく。来年度は、さらに保育園児との交流を積極的に取り入れるなどしていく。</li> <li>・ 人権・同和教育について職員間で、保育終了後その都度立ち止まって考え、話し合うことはできたが、しっかりと深め、保育へとつなげていく点においては課題も残った。例えば、同推協に来てもらい、実際に保育のかかわりを見てもらい、討議し合う研修なども取り入れていきたい。</li> <li>・ 栽培活動では、継続して畑の世話をすることの難しさや大変さについても幼児なりに気づきながら、収穫した喜びが感じられる様な援助も考えていきたい。</li> <li>・ 今後も保護者と共に子どもの成長と課題を考え合える信頼関係を築いていく。</li> </ul>
---



【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 三重幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	友だちのありのままの姿を受け入れられる幼児の育成	4
成果と課題	<p>○幼児が、自分の気持ちを受け止めてもらう心地よさを感じられることが、大切であると思い、教師が幼児一人一人に寄りそったかわりをしてきた。また、それぞれの幼児が思いを出す場を大切にすることで、お互いの姿を認めたり励ましたりできる気持ちを育てることができた。教師が、幼児のありのままの姿を受け入れ認める態度から幼児の育成へとつながっていった。</p> <p>○幼児が、友だちのありのままの姿を受け入れ、自分なりにかかわりを持ちながら繋がることができていた。しかし、相手の気持ちに気づきづらかったり友だちの中へ入っていくことに戸惑いを感じる幼児もいた。「一緒に遊ぶ楽しさ」を感じられるように教師が援助したり、相手の気持ちを教師も一緒に考えながら気づいていけるようなかかわりを、今後も大切にしていきたい。</p> <p>○苦手なことは助け合ったり、困ったことをともに考え合う姿が見られるようになった。自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを考えていく大切さを今後も伝えていきたい。</p>	
重点 2	友だちと一緒に思いきり身体を動かして遊びを楽しむ幼児の育成	3
成果と課題	<p>○戸外で積極的に体を動かす幼児が増え、友だちと相談しながら一緒に遊ぶ楽しさを感じることができた。戸外での遊びに興味を示しづらい幼児には、教師と一緒に遊び、思いきり楽しむことで「やってみたい」という気持ちを持てるようにしてきた。竹馬、縄跳び、ケイドロ、ドッジボールなどを繰り返し行うことで、遊びを通して体の使い方を知ったり、挑戦しようとする気持ちも育っていった。</p> <p>○ひとつの遊びを深く楽しむことはできたが、新しい遊びを取り入れたりしながら、幼児の遊びの幅を広げていくことは十分にできなかった。引き続き、戸外に誘いかけながら、戸外の環境構成を工夫していき、魅力あるものにしていくことで幼児の遊びの幅を広げていきたい。</p> <p>○保育の中で、生活習慣の取り組みを毎日繰り返し行うことで、幼稚園では身につけてきているように思われた。しかし、家庭では十分に行われていないこともあり、家庭と連携を取り、保護者に幼児の生活習慣の大切さを伝えるとともに、一緒に取り組んでいけるように今後も工夫していきたい。</p>	
重点 3	楽しく豊かに自然とかかわる幼児の育成	3
成果と課題	<p>○柿狩り、ミカン狩りなどの園外活動を通じ、地域の方とのふれあいを感じたり、その季節ならではの自然に触れ、季節を感じるすることができた。しかし、近くに散歩に行くなど気軽に園外に出かけることは難しかった。計画を立てるだけでなく、保護者の協力も得ながら、幼児の豊かな自然体験を保障していけるようにしたい。</p> <p>○カブトムシなどの飼育をすることで成長を喜んだり、命の大切さを知ったり自然に対して興味を示すようになった。</p> <p>○地域の方の協力を得て、様々な野菜の苗植えや収穫ができた。園内では個々の植木鉢や園内の畑の水やりをしながら生長を見届けることができた。園外の畑は距離もあるため定期的に世話に行くことが難しく、野菜の生長を見ることが十分にできなかった。世話をすることで収穫の喜びに繋がっていくため、月に一度畑に行く日などを設けていきたい。</p>	

重点 4	学び合い、聴き合い、互いに高め合える職員集団の形成	4
成果と課題	<p>○幼児の知的発達について研修に取り組んだり、小学校との学びの連続性について小学校や県教委と一緒に研修することができた。</p> <p>○専門機関との連携、研修を多く持つことができ、研修を重ねることで学びを深めることができた。また、全職員で知識を共有することで、どの教師がかかわっても同じように援助することができ、より成長につなげていくことができた。</p> <p>○園内研修で実践を出し合いながら、幼児の新たな一面を知り保育に活かしたり、支援方法について考えることができた。また、研修に限らず日々の幼児の姿を保育後に話し合うことで幼児理解、職員の共通理解を深めることもできた。今後は研修に参加し個々が学んできたことを園内で還流していく時間を今まで以上に持つていくことで学びをより深めていけるようにしたい。</p>	

## 2 改善方針

<p>○引き続き、幼児のありのままの姿を教師が受け止め、思いを出していける場を作っていくことで、どの子にとっても幼稚園が安心できる楽しい場になるようにし、その中で相手の思いに気づきともに遊び、生活していけるようにする。幼児が友だちの様々な姿を受け入れ、共に育ちあえる環境を充実させていく。</p> <p>○教師は一人一人の発達や経験の差をふまえて、幼児が楽しんで遊ぶ中でより身体を使って思いきり遊べるように環境設定や遊びの工夫をする。幼児が教師や友だちとともに挑戦する気持ちを高め合いながら、身体の使い方や力加減のしかたなどを身につけ、教師は目標をもって楽しく取り組める環境づくりを目指す。また、保護者にも幼児期に十分体を動かすことが身体面での発達だけでなく言葉や思考力にも繋がっていくことを伝え、家庭と連携を取りながら幼児の心と体の成長を促していけるようにする。</p> <p>○園内研修から教師が自分の保育の強み、弱みを把握し資質向上に努めていけるようにする。また、お互いの保育観を認め合い、学び合える関係を高めていき、積極的に情報交換やコミュニケーションをとる職員集団を今後も意識していく。幼児の活動の一つ一つを丁寧に振り返り、次の活動をより良いものにできるように、園内研修や反省会、研修の報告なども充実させる。</p> <p>○園外保育や地域との交流を充実させていく。園児の体験活動を充実させるだけでなく、地域との交流を深めたり、家庭や地域に幼稚園の教育活動や、子どもの育ち、小学校へつながる学びについてなどを発信していくことで理解と協力を得て、幼児の育ちへと繋げていく。</p> <p>○園外の自然に触れる機会を計画的に設け、身の回りにある自然を感じられるようにする。そのため、季節と自然とのかかわりを職員自らが感じ、自然物に対する知識をより豊富にしていくよう努める。</p>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 保々幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	夢中になってあそぶ《学ぶ》教育内容の充実	3
成果と課題	<p>○年度当初、一人一人は自分の好きな遊びを見つけて、楽しんでいく姿があった。年長児は、年長になった喜びから、昨年の子供のしていた遊びや当番活動をはりきってやる姿が見られた。しかし、気の合う友達同士だけで遊んだり、新しい遊びをやり始めてできないと感じたりすると、すぐにあきらめ、今までしたことのある遊びや簡単にできる遊びを求める姿が見られた。</p> <p>より楽しい遊びになるよう工夫したり、こつこつ積み重ねることでもうまくなるようになる楽しさを感じたり、さらに新しい遊びへ挑戦していきける力やその過程で先生や友達とかかわり、自分の思いを表現し合う力を育てていくことを重点に取り組んだ。ごっこ遊びでは、少しずつ自分のイメージを言葉で表現し合ったり、イメージしたことを遊具や教材などを使って工夫して作ったり、力を合わせて取り組むことを楽しむ姿が増えていった。遊びの場面で工夫するようになってきた年長児の姿を見ながら、年少児は「自分たちもやってみよう」と自然と一緒に遊んだり、年長がこつこつと取り組んでいた竹馬や鍵盤ハーモニカなどにあこがれを持ったりすることができた。さらに4・5歳の関係がより深まった。</p> <p>◎苦手感などを感じて一歩引いてしまう幼児もいる。どんなことに苦手意識を持っているのか姿をとらえ、その中で興味や楽しさを感じていけるような教師側の環境設定・教材準備に対する工夫がこれからも必要である。</p> <p>◎当番活動など、毎日取り組む中で身に付く力、あきらめずにやり抜く力を見据えて、日々の活動の計画を立て、意識して実行していく必要がある。</p>	

重点2	保・幼・小・中・高との連携の充実	4
成果と課題	<p>○保幼交流では、5歳児同士の交流を中心に年間40回以上を実施し、多人数だからこそ楽しめる活動を取り入れた。毎回の活動の打ち合わせと反省の時間では、保育の中で大切に思うこと・保幼合わせて子どもにつけたい力について、多くの意見や思いを出し合うことができ、その都度活動の内容を改善して活かすことができた。また、回を重ねたことで、子どもも少しずつ名前を覚えたり、一緒に活動する楽しさを感じたりする姿が見られるようになった。</p> <p>◎育ちのプログラムの授業公開、公開保育など互いの活動を見ることができた。今後ともなめらかな接続のために、職員の学ぶ姿勢を大切に連携していく。</p>	

重点3	保護者・地域との連携と協働	3
成果と課題	<p>○保育後の時間・朝の登園時など、保護者と子どもの様子や保育について積極的に話すように意識して行動していた。対話を重ねることで、子育ての悩みや保護者自身の悩みを聞くことができ、ともに考える関係を作っていくことができた。</p> <p>○敬老会や人権まちづくりなどの地域行事に、保育園の園児と一緒に参加して、地域の人たちとかかわる機会を持った。また、栽培の活動で、地域の人たちに手伝ってもらったり、近くのお店に買い物に行く体験など、自分たちの町を知る機会を多く持てた。また、地域の人から声をかけてもらったり、話を聞いたり、優しくかかわってもらった経験をしたことで親しみを持ったり自分から声をかけたりする姿が見られるようになった。</p> <p>○お世話になっている人たちを、園行事（カレーパーティーなど）に招待して、感謝の気持ちを伝える機会を設けたことで、さらにつながりが深まり身近になった。</p> <p>◎子どもの姿を通して、家庭・地域とつながることができる園でいられるように、これからも対話の場を積極的にもつことが重要である。また、子どもの生活の背景をより丁寧に知るために、色々な立場での家庭訪問を積み重ねていくことも必要である。</p>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師間で子どもの姿を多角的にとらえ、どんな力をつけていく必要があるか、そのための具体的手立てを明確にした上で、実行できているのか、実行した上でどんな力が育ってきているのかを確認する園内研修を月1回もつ（SPDCAサイクルにそった園内研修を行う）。</li> <li>・ 幼稚園の教育の取り組みについて、園児の遊びの様子を写真で掲示し、来園者や地域の方にも発信するなど工夫する。未就園児の保護者への発信も合わせてしていく。</li> <li>・ 家庭訪問の目的と必要性を職員間で共有しながら、子どもの背景を捉えるために色々な立場から積極的に行うようにする。</li> </ul>
---

【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 下野 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	健康な心と体づくり	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーキット遊びなど、時期やねらいに応じた体づくりの環境設定を工夫できた。園庭のあちこちを駆けめぐるマラソンやチャレンジタイムを取り入れ、楽しみながらいろいろな体を使った活動を経験することができた。</li> <li>・地域の環境を生かし、計画的に園外保育にも出かけることができた。はっきりとした目当てを持ち、職員で共通理解をしていたので、子どもたちにも良い経験を積むことが出来た。今後も、保護者の力も借りながら、地域の自然に触れる機会や歩く経験を充実させていきたい。</li> <li>・生活リズムについては、今年度もPTAの保護者研修会で『早ね・早起き・朝ごはん・朝うんち』のアンケートをもとに、話をする機会を作ったので、家庭にも意識してもらうことができた。園では手洗い・うがいなど基本的な生活習慣は繰り返し伝え取り組んできた。又、歯磨きを行う時に砂時計を用いて丁寧に磨くことの大切さが意識できるよう配慮した。</li> <li>・お米づくりを通して、米ができることを子どもなりに理解することが出来た。稲刈りの時は、ご飯を残さずに食べることに意識できたが、年間通してとなると難しいところもあった。また、園の畑や個人の鉢で野菜を育て、収穫やクッキングを体験したことで、普段食べない野菜でも、食べてみようとする姿が見られた。苦手な食べ物が多い幼児がいたが、赤・緑・黄の栄養素も意識できるように話をし、自分の体にとって必要なものであることを伝えた。</li> </ul>	

重点 2	豊かな表現力と確かな力をつける教育内容の充実	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は一人一人の遊びや生活の中での姿から、どのような関わりをすると、よりその子の持っている力が発揮できるかを考えながら取り組んできた。取り組みがスムーズに行えるように、視覚支援をできるだけ多く取り入れ、不安を少しでも減らすように工夫した。</li> <li>・忍者のテーマで1年間を通して様々な遊びや園外保育で、心揺さぶるような感動体験をすることができた。体験を通して、子どもたちは様々な表現をすることが出来た。このような活動を今後も大切にしていきたい。</li> <li>・5歳児は『気持ちカード』を用いて自分の思いを表現する場を作ってきた。決まった言い方でみんなの前で発表することで、話すことに自信がついた。またグループ活動や遊びの中で、子ども同士で考える場面や協力して生活を進めていく経験を積み重ねてきたことで、少しずつ自分の思いを言葉で伝えようとしたり、相手の思いに気づいたりするようになってきた。</li> <li>・様々な場面で、上手に自分の思いが表現できない時は、教師がどのように伝えると良いか気持ちに寄り添いながら一緒に考え、相手にわかるように伝えてきた。今後も丁寧に関わり、一人一人に伝える力をつけていきたい。</li> <li>・毎日の絵本の読み聞かせや、「どっこいしょ」による毎月の素話等で、想像力や物語をイメージして楽しむ力、じっくり話を聞く力がついてきた。</li> </ul>	

重点 3	豊かな人間性を育み、人と関わる力を育てる	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が季節感が味わえるような環境設定を工夫したこともあり、子どもたちは自然物をたくさん使った遊びを展開して楽しんでいった。5歳児が4歳児を遊びに招待して交流を深め、そのことが4歳児の遊びにもつながっていった。</li> <li>・年長児・年少児でのペア活動を通して、思いやりや憧れの気持ちなどを育むことができた。教師間も連携をとることで、行事などの活動だけでなく、日々の遊びの場面でも交流を持ち関わっていくことができた。</li> <li>・教師がカードを作ることで、竹馬や竹ぼっくり、雲梯・鉄棒・縄跳びなどに楽しみながら取り組み続けることができた。個人がそれぞれ目標を持ち、達成できると満足感や達成感を味わうことができた。</li> <li>・グループ活動や当番活動を通して友だちと協力したり、自分の役目を責任を持って果たしていこうという気持ちをもてるようになった。</li> <li>・熱中して遊んでいる場面に視点を置いて実践をとり、大学連携研修において助言いただき、研修を深めることが出来た。引き続き、子どもの気持ちを考えて援助していきたい。</li> </ul>	

重点 4	家庭・地域・保小中との連携	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生会のお楽しみの時間に、保護者ボランティアをつのり、保護者の持ち味を生かした出し物をしてもらっている。今年は、英語と中国語を使いゲーム感覚で楽しい時間を過ごすことが出来た。降園時には、保育説明やホワイトボードを使って伝えるだけでなく、直接保護者との会話を持ったり、写真や子どもの製作物を見せたりすることで、どのような力が育っているかを伝えるようにした。</li> <li>・PTA主催の『おたのしみ会』では、体を使った遊びを楽しみながら行うことが出来た。また、保護者同士の交流の機会にもなった。</li> <li>・保幼3園交流は年間計画を立て行うことが出来た。中学校は、家庭科で交流を持つことが出来、触れ合う良い機会となった。保幼小の交流や未就園児（めだか・わくわく）との交流を通して、地域とのつながりが広がった。</li> <li>・保護者の方からいただいた意見や評価に対して、職員で話し合い、今後の改善の参考に努めるようにしてきた。</li> <li>・月に一度の交通安全指導では、親子で交通安全を意識する良い機会となったが、十分に指導や意図が伝わらなかった部分もあったので、改善したい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園で大切にしていることや遊びの中での学びなどを、子どもの遊ぶ場面の写真を使い、降園後やたよりやPTA委員会の時等に伝えてきた。しかし、伝えきれない部分もあった。ホームページの活用が少なかったため、今後は、園の内容や遊びの中の学びの部分発信して、外部の人にも積極的に伝えていく。</li> <li>・学びの一体化での公開保育などで、幼稚園での取り組みを積極的に伝えていきたい。</li> <li>・子どもの活動の写真をとり、保護者に掲示する以外に、それを使って園内研修に生かしていく。</li> <li>・五感を使っでの活動を今後も行い、心揺さぶられるような体験をしていきたい。時には園外保育に計画的に出かけ地域の施設や自然を活用し、保育に取り入れていく。</li> <li>・基本的な生活習慣の定着に向けて、引き続き大切さを伝え、家庭と共に考えていく。</li> <li>・栽培や食育は年間計画などを作り、見直しをもって行っていく。</li> <li>・交通安全指導は、親子で道路の渡り方や歩き方に気をつけ、マナーを見につけることが目的であり、今後も大事な点を伝えながら行っていく。</li> </ul>
--

## 自己評価書

四日市市立 羽津 幼稚園

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	遊びを通じての学びの充実	3
成果と課題	<p>●幼児期にふさわしい経験・体験の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児では幼児が友達とかかわり合って遊びを展開していくことができるような環境や時間の工夫をすることで、友達と一緒に夢中になって遊び込む姿や、友だちの刺激を受けて新しいことに挑戦しようとする姿が見られた。</li> <li>・4歳児では個々の発達段階や興味関心を探り、自ら遊びだせる環境、主体的に遊びを楽しむことができる環境を工夫し、一人一人が満足できるよう援助してきた。自分の遊びを十分楽しむ中で周りの幼児とのかかわりが生まれ、友だちと遊ぶことの楽しさを味わうことができた。</li> </ul> <p>●健康で豊かな生活を送るための基礎の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節を感じながら戸外で体を動かして遊ぶことができるよう、園庭の遊具の設定や法面の整備などを行い、遊びの中で楽しく体を動かすことで体力向上につながった。地域の行事と園外保育を兼ねたり、近くの神社へ行くなど無理なく園外保育を取り入れてきたが、行事などに追われ回数を重ねることができなかったことが課題である。</li> <li>・栽培活動や収穫祭、クッキング、日々の食事などを通して、食や自分の体への関心を持つことができるよう取り組んできたことで、食べることを楽しみ、苦手な食べ物にも挑戦しようとするようになっていく。</li> <li>・身の回りのことを自分の力で進めていくことができるよう、CLMや視覚支援を活用しながら取り組んだことで、教師が環境のあり方を見直すきっかけになった。また個別の支援を必要とする幼児に対して、絵カードや声かけなどの支援を工夫することで、「自分でできた」喜びを感じることで、一人一人の成果につながった。</li> <li>・十分に遊びを楽しんだ後は、次の活動に向けて気持ちを切り換えられるようにすることが課題であり、今後はそのための援助のあり方を考えていく。</li> </ul>	

重点 2	人とかかわる力の育成	3
成果と課題	<p>●人権教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児では自分の思いを言葉で伝えられること、相手の思いに気付くことができることに重点を置いて、「どんなきもちカード」を活用しながら視覚的に捉えて考えられるよう取り組んできた。遊びの中で思いが衝突することも経験しながら、自信を持って自分の気持ちを伝えられるようになっていく。また友達との関わりの中で自分の気持ちをコントロールするために、幼児同士で話し合う機会を作ってきたが、その中で自分の思いを出すことができない幼児の姿もあり、一人一人の思いを引き出し、表現できるようにしていくことが課題として残った。</li> <li>・4歳児は初めての集団生活の幼児も多いため、ふれあい遊びなどを多く取り入れ、周りの人の存在に気づき、教師や友達と一緒にいることが心地よいと感じられる関係を作ることや友達と関わって遊ぶことの楽しさを感じることに重点を置いて取り組んできた。自分の思いを表現することを大切にしてきたことで、言葉で表現することが難しい幼児に対して、周りの幼児が気持ちを汲み取ろうとする姿が育っている。一方で、自分の思いを強く表現する幼児に対して、教師がその幼児の思いやありのままの姿を受け止めることができているかを振り返りながら援助のあり方を探ってきた。</li> <li>・4歳児と5歳児がペアになって活動することも多く関係ができたことで、遊びの中で自然に異年齢で遊ぶ姿が生まれ、異年齢の幼児とのかかわりの中で相手を思いやる気持ちや譲る気持ちを持つ機会となった。</li> <li>・絵本や月刊誌などの視聴覚教材を活用し、自分の気持ちを伝えること、友達の思いに気付くことの大切さを感じられるようにしてきた。</li> </ul> <p>●聴く力、話す力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話す力については、遊びの場面や様々な活動の場面で自分の言葉で伝えることを大切に取り組んできたことで育ってきている。聴く力については、教師や友達が話している途中で話し出すことがあり、CLMでみんなで話を聞くときのルール作りをしたり、最後まで友達の話聞いてから自分の考えを伝えることを繰り返してきた。</li> </ul>	

重点3	地域や家庭、専門機関との連携	3
成果と課題	<p>●家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリーティーチャーや懇談を通して、幼児の姿や遊びの様子、遊びの中の学びなどについての理解を広げることができた。降園時などに保護者と対話しながら連携を図ってきたが、保護者の不安な気持ちに十分寄り添うことができていたかということが課題として残った。</li> </ul> <p>●特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内の大学連携研修において、専門的に幼児の姿を捉えて助言指導を受けることで、個々の発達課題や特性を知り、具体的な支援につなげることができたことは大きな成果である。また特別支援保育研修やCLMなどを通して、環境や支援のあり方を振り返り、個別の支援計画に反映させることで、幼児の成長につながったことを実感することができた。</li> </ul> <p>●地域とつながった教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・羽津地区老人会(春風会)との交流を継続的に行うことで、幼児の様子、成長、変化などに気付いて声をかけてもらえることの大切さを感じる。</li> <li>・地域の人から提供してもらった材料や廃材を使って遊び、製作したものをプレゼントして感謝の気持ちを伝えるといった活動を遊びの中で自然に行うことで、保護者や教師だけでなく地域の多くの人に育ててもらっていることを感じられる機会となった。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを通しての学びの充実を図るための環境構成のあり方を考え、幼児が夢中になって遊べるように一人一人とじっくりとかかわることに今後も引き続き取り組んでいく。また、園内研修でそれぞれのクラスの環境構成について職員間で意見交換したり、幼児の姿からどんな環境や教材が適しているか、その発達に適しているか、その中でどんなことを経験させ学びとつなげていかなど細かく話し合っていけるようにしていく。</li> <li>・基本的な生活習慣については個人差があるため、一人一人に合った支援とクラス全体への支援をバランスよく行っていく。CLMの取り組みの中で、幼児の姿から課題の要因を探り、環境構成のあり方などを見直すことで、自分で考えて行動していける力を育てていく。</li> <li>・友だちとかかわる中で大切となるコミュニケーション能力の育成では、4, 5歳共に自分の思いの表現方法が課題であった。自分を表現しながら園生活を送ることができるよう見守り、受け止めるとともに、言葉でのコミュニケーションが苦手な幼児には、その都度どのように友達とかかわっていくとより過ごしやすく楽しむことができるかを考え、行動できるようにしていく。また、触れ合い遊びに継続して取り組むことで友達とかかわることの楽しさや心地よさを感じられるようにしていく。</li> <li>・保護者への日々の様子の発信という点では偏りがあったため、教師から積極的に話をし、保護者の思いを丁寧に聞き取って対応していく必要がある。</li> <li>・今年度は大学連携研修で、特別支援教育について専門的なことを多く学ぶことがあった。また、CLMを通して個別の支援とクラス全体への支援とのつながりも学ぶことができ、一人一人を丁寧に見ていくきっかけとなったため、引き続き取り組んでいけるようにする。</li> <li>・今年度も保護者参加の製作や行事が多くあったが、その目的や昨年度の意見を反映して、製作するだけではなくその後の保育への活かし方を工夫したため、よりよいものとなっていった。このように、何のために行うか、どのようなねらいをもって行うかを今後も確認しながら進めていくようにする。</li> </ul>
--



【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 富洲原 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	遊びの充実を図る。	3
成果と課題	<p>○混合クラスの運営が2年目で、昨年度の反省をもとに試行錯誤をしながら「1クラス」という点に軸足を置くことを職員同士で確認しながら進めることが出来た。4・5歳児がいつも同じ場で過ごすことで、自然な関わりが生まれた。</p> <p>○4・5歳児が同じクラスとして一緒に遊ぶことで、ルールを教え合ったり、友だち同士声をかけ合ったりして集団生活を楽しむ姿が見られた。</p> <p>○体作りを目指した運動遊びは年間を通して、時期に合わせながら行うことが出来た。</p> <p>●4・5歳児を同時に保育することで発達の違いを捉えることは出来たが、教師自身の関わり方や支援の方法など、とっさの判断での対応力を磨いていくことで、それぞれの発達を推さえていけると思う。</p> <p>●幼児がすぐ遊びたくなる環境の工夫が足りなかった。</p> <p>●教師の存在で安心して遊びだす姿がまだある。子ども同士誘い合う、または教師がその場を離れても遊び続けられるように、もっと幼児の思いや考えを多く出し合わせ、伝え合い、考え合う機会を大切にしていける必要がある。</p>	
重点 2	自己表現する力を育てる。	3
成果と課題	<p>○4・5歳児共に個人差はあるが、4月当初に比べ、自分の思いや考えを言葉や表情で表現出来るようになってきた。</p> <p>○幼児一人一人に丁寧に関わることで、人間関係を深め、幼児が自ら自分の思いを表出することが出来るように、いろいろな遊びのコーナーを環境として工夫することが出来た。</p> <p>○自分の思い、特に困っていることを伝えられない幼児に対して、自ら発信出来るような雰囲気や心がけたり、具体的な表現方法を知らせたりしてきた。少しずつ教師や身近な友だちに自分の思いが出来るようになってきた。</p> <p>●幼児が自分の思ったことをありのまま安心して出せるように、どの意見も受け止め、様々な思いがあって良いことを伝えてきた。しかし、言うてよいこととそうでないことの区別が難しかったり、思いを出してよい時に黙ってしまったりする姿もある。教師自身の言動をもう一度見直し、幼児が本音で表現出来るようにしていきたい。</p> <p>●幼児一人一人の思いに寄り添い、幼児の心の奥を読み取る大切さに気付くことが出来た。今後は気付いた時のいろいろな角度からのアプローチの工夫をしていくことが大切である。</p> <p>●特に5歳児は楽しく気持ちが高揚してしまった時に、相手の気持ちを考えて、して良いこととそうでないことを考えて行動したり言葉をかけたりすることが難しい姿があった。今後は相手の表情などにも気付かせ、自分の気持ちを抑制することが出来るような事前の関わりがさらに必要である。</p>	
重点 3	家庭・地域との連携を図る。	3
成果と課題	<p>○地域の人にも気持ちよく挨拶出来る幼児が増えてきた。</p> <p>○保護者と短くても繰り返し言葉を交わすことで、幼児の様子や保護者の思いを知ることが出来た。またそのことを職員間でも伝え合うことで、幼児についての共通理解を深めることが出来た。</p> <p>○昨年を振り返り、地域交流のねらいをしっかりと持って取り組むことを大切にしたい。ねらいをしっかりとつづつすることで、子ども達にかけられる言葉を工夫することが出来た。また、手紙を書いて直接渡しに行くなど大きな行事だけでなく日常のなかで無理なく交流をすることも出来、子ども達が地域の人をより身近に感じる機会になった。</p> <p>●園での様子、家庭の様子を伝え合うことは出来たが、さらに一緒に改善方法を考えていけるとよかった。</p> <p>●今後はさらに地域を散歩する、公園に遊びに行くなど時間の確保が出来るとよう、先を見通した園の行事の工夫をしていく必要がある。</p>	

## 2 改善方針

- ・今後さらに職員間で共通理解した関わりや、園の活動の内容を改善していく為の意見交流・連携を深めていく必要がある。
- ・支援の必要な幼児を中心に、幼児一人一人が安心して過ごせる教師の関わりを見つめ直してきた。教師自身の見方・考え方を变えることで幼児の姿も変わってくることを学ぶことが出来た。今後も見方・考え方を振り返り、子どもの姿から気付いていける人権感覚を磨いていくことが大切である。
- ・今年度は昨年度の反省を踏まえて、混合クラス「1クラス」として、どのように活動を進めていくとよいか、遊びの充実を図るために、どのような環境構成が望ましいか、教師の関わりはどう工夫していくとよいか、試行錯誤しながら考え合ってきた。今後は集団としての保障を大切にしながらも、それぞれの発達の保障も充実出来るように研修を深めていきたい。
- ・支援の必要な幼児への職員間の共通理解や保護者への働きかけをさらに密にし、関係機関との連携も深めていくことが大切である。

【様式1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 高花平 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	健康な心と体の育成	3
成果と課題	<p>○園で手洗いやうがいなどが自分でできるようになったり、家庭で年3回の生活習慣チェックシートの記入に取り組んだりしたことで、幼児だけでなく、保護者の生活習慣への意識を高めることができた。</p> <p>○鬼遊びやりレーなどの遊びを積極的に取り入れたり、親子でする体遊びの事例を紹介したりしたことで、保護者アンケートからは戸外で遊ぶことが好きになったとの評価が得られた。しかし、遊びの種類によっては、苦手意識を持つ幼児もいる。今後も幼児が楽しみながら体を動かせるような環境の工夫をしていきたい。</p> <p>○継続的な菜園活動やクッキングなどの食育活動を行ったことで、食に興味・関心を持ち、自分から食べてみようとする意欲的な姿がみられるようになった。アンケートでは、おおよその保護者がきれいな食べ物でも食べようと努力するようになったとの評価が得られた。なかには意欲がまだ十分に持てない幼児もいるので、今後も家庭との連携を図りながら、個々に応じた取り組みを続けていきたい。</p>	

重点2	コミュニケーション力の育成	4
成果と課題	<p>○4、5歳児の混合保育の良さを生かし、生活や遊びの中で異年齢のかかわりを深めることができた。5歳児は4歳児の気持ちを汲みとって関わろうとする優しい姿がみられるようになった。一方で、自分の思いがうまく伝わらず、どうしたらよいか考えようとする姿もみられた。4歳児5歳児同士がペアになって活動することで、4歳児は5歳児に憧れの気持ちを持ったり、安心して自分の思いをのびのびと表現しながら園生活を送ることができた。今後も取り組みを継続していきたい。</p> <p>○地域の高齢者の方など、園児同士だけでなく様々な人とかかわる交流の機会を積極的に持ち、刺激を受けたり温かさを感じることができた。交流を通して、大勢での活動や沢山の人の前で発表する機会を経験することができた。</p>	

重点3	学びにつながる意欲の育成	3
成果と課題	<p>○自ら選んでする遊びの時間を大切に、幼児の発見や考えを大切に保育を行ってきたことで、保護者アンケートからは、ほとんどの幼児が遊びを試したり工夫したりして遊べるようになったとの評価であった。今後も砂遊びや色水遊びなど、幼児自らが様々な気づきや発見をしたり、不思議さに心を動かし探求してみようとするなど、幼児の意欲が高まる様々な遊びを取り入れていきたい。</p> <p>○保護者アンケートより、ほとんどの幼児が園の生活や遊びが楽しいとの評価であった。ルールのある遊びでは、皆でどうしたらいいのかを話し合ったり、発表会の劇遊びでは、5歳児は思いを伝え合ったり、困っている友だちの<del>の</del>ことを考えて、助けようとする姿がみられた。また4歳児は生き生きと役になりきって表現する姿がみられた。このように、協力し合いながら最後までやりとげ、達成感を味わう取り組みが、遊びの楽しさにつながっていると思われる。今後もこのような取り組みを継続していきたい。</p>	

重点 4	子育て支援の充実	4
成果と課題	<p>○保護者と降園時に話す機会を持ち、共に幼児の成長を喜んだり考えたりすることができた。おたよりには、園での遊びの様子を写真で載せたり、取り組みの様子を写真と共に掲示したりして、園での取り組みやねらいなどが保護者に伝わりやすいように工夫をした。今後も相互理解を図りながら、共に考えあえる関係づくりに取り組んでいきたい。</p> <p>○毎月の誕生会に遊び会の幼児と保護者に参加してもらうことで、園の様子や保育者の関わりなどを見てもらうことができた。また、5歳児がお店屋さんになる「おいもレストラン」や、保護者と園が協力して行う「ひよこまつり」など、地域・保護者・園が協力しながら取り組むことができ、好評だった。園への安心感や期待感につながっていった。</p>	

## 2 改善方針

<u>健康な心と体の育成</u>	<p>地域探検や自然との触れ合う活動を工夫し、体づくりにつながる取り組みを継続的に実践する。また、園内での取り組みだけでなく、家庭での基本的な生活習慣を身に付けていく大切さを今後も知らせていきたい。</p>
<u>コミュニケーション力の育成</u>	<p>自然に触れ合う体験を豊かにしていくために、園内だけではなく地域に出かけ、感動体験の幅を広げていきたい。</p>
<u>学びにつながる意欲の育成</u>	<p>幼児の興味や関心が広がるような環境の工夫や教師の援助のあり方について、今後は年間を通した取り組みを重視していきたい。</p>
<u>子育て支援について</u>	<p>園での取り組みや、遊び会の内容や様子などを具体的に伝えていけるよう、今後も発信のあり方を工夫していきたい。</p>

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 大矢知 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	コミュニケーション力のある子どもを育てる	3
成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の顔を見て、気持ちを込めて挨拶するということを、教師がモデルとなって行っていくことで、幼児が教師や友だちに自ら挨拶をしようとする姿が増えた。また、地域の人とかかわる機会の中で、来園者や園外で出会った地域の人にも、挨拶をしようとする姿が見られるようになった。</li> <li>・クラス全体で、挨拶の大切さや必要性、相手が心地よいと感じる言い方について話し合ったり考えたりする機会を作るようにしてきた。幼児が心地よい挨拶を意識し、挨拶をしようとする姿が少しずつ増えてきた。</li> <li>・トラブルが起きた時に、当事者だけでなくクラス全体で話し合うことで、様々な考えや解決方法や伝え方があることを知った。また、友だちの気持ちを想像したり、同じ立場になって気持ちを考えたりする姿も増えてきた。</li> <li>・幼児の内面を理解し、発せられる言葉や表現をしっかりと受けとめ、援助するように努めてきたことで、幼児の相手を思いやろうとする気持ちや態度が育ってきた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の話最後まで聞いて行動するよう指導を行ってきたが、不十分なところもあった。話を聞く大切さを伝えていきながら、引き続き指導していくことが必要である。</li> <li>・自分の思いを表現することが苦手な幼児の姿や、自分の思いとは違う考えを受け入れづらい幼児の姿もある。表現する機会を意識的に作ったり、自分とは違う考えを受けとめ、気持ちが通じた時の嬉しさの体験を積み重ねていく等、今後も援助の仕方やかかわり方を探っていきたい。</li> </ul>	
重点2	体力のある子どもを育てる	3
成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内の限られた空間を利用し、ホールに巧技台を組んだり、教師も幼児と共に積極的に体を動かして遊んだりする等、環境を工夫したことで、様々な運動遊びを楽しむ幼児の姿が見られ、遊びの種類も増えた。また、教師や友だちと鬼遊びを繰り返し遊んできたことで、友だちと体を動かして遊ぶ楽しさを十分に感じ、幼児同士で遊びをすすめていこうとする姿も多くなってきた。</li> <li>・雲梯・鉄棒等に挑戦する活動をクラス活動にも取り入れたことで、体を動かして遊ぶことへの興味・関心が持ちにくい幼児も、挑戦してみようとする姿が見られるようになった。また、苦手なことにも根気強く取り組もうとする幼児の姿が増えた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の体育館を借りたり、広場に出かけたりする等し、思い切り走ったり体を動かしたりして遊ぶことができるように工夫していききたい。また、幼児の興味・関心に応じた活動内容を考え、教育課程に位置づけていく。</li> <li>・園外に出かける経験が、気候（暑さ・寒さ）等の理由から少なくなってしまった。園外保育を計画的にカリキュラムに取り入れてきたが、さらに見直しを行っていききたい。また、継続的・段階的に体力づくりをすすめていききたい。</li> </ul>	

重点3	感性豊かな子どもを育てる	4
成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修で、一人一人の幼児の「大好き」な遊びや人について、共通理解を図った。また、意見交換を行う中で、自分とは違った視点での意見が出て、「大好き」を深めるための環境やかかわり方の工夫を考え合うことができた。</li> <li>・クラスだよりで、幼児たちが楽しんでいる遊び等について紹介し、保護者にも幼児たちの「大好き」を知ってもらい、様々な活動への意欲が学習や成長につながっていくことを伝えることができた。また、保護者からも家庭での幼児の話聞く機会も増えた。</li> <li>・自分の得意なことや好きなことに十分に取り組むことができる場所や時間を確保していくことで、友だち関係が広まり、つながりも深まった。また、今まで気付かなかった友だちの一面を知り合うことにもつながった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な視点をもったことで、「感性」という実態のないものを具体化することができつつある。次年度も、引き続き取り組んでいくようにする。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、教育実施計画を作成する際にキーワードを決め、教育活動に取り組むことができた。また、キーワードに基づいて実践をとり、計画的に園内研修も行うことができた。この取り組みは初年度であるので、今年度の取り組みを検証しながら、次年度も取り組みを深めていきたい。</li> <li>・幼児たちの遊びがより深まっていくために、日課や行事等を見直していく必要がある。教育要領の理解を深め、カリキュラム編成の改善を行っていきたい。</li> </ul>
---

【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 八郷中央 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	遊びや生活に主体的にかかわり、集中して取り組む力を育てる	4
成果と課題	<p>・ 4・5歳児混合のクラスであり、昨年度の5歳児の姿に憧れを持っていたので、当番活動を1学期当初から計画的に行ってきた。そのことで、自分達の生活により主体的にかかわるようになった。遊びにおいても、教師が率先して戸外に出て、それぞれの発達に合わせ、鬼ごっこやボール遊び、固定遊具などを提案し、一緒に幼児と遊び楽しんで取り組むことで、幼児自身が身体を動かして遊ぶことがより好きになったように感じる。</p> <p>・ 初めての遊びや、経験の少ない遊びには、なかなか取り組もうとしない姿が見られた。様々な活動の中で、友だちや先生に励まされたり、頑張ろうとする課程を認めてもらったりすることを体験した。また、固定遊具や今まで経験の少ない遊びをみんなで取り組むチャレンジタイムを設け、成功体験や、みんなで遊んで楽しかった経験を重ねた。次第に、自信が持てるようになり、様々な遊びや活動、新しいことにも自ら取り組もうとする姿が見られるようになってきた。しかし、色々なことに興味関心を示す分、次の遊びへ興味が移りやすく、一つの遊びを発展させたり、集中して取り組んだりすることが難しかった。</p> <p>・ 遊びや生活の中で、5歳児の姿を近くで見ていることが刺激となり、4歳児も当番活動に意欲的であったり、遊びも真似をし遊んだりする姿が見られた。また、一緒に遊ぶことも多く、各学年の人数は少ないが、混合クラスとしてそれぞれに刺激を受け合っていた。</p>	
重点 2	人とかかわる力を養う	3
成果と課題	<p>・ 「貸して」「入れて」などを言えるが、自分の思いやなぜそうしたいかなどをうまく言葉で伝えられない場面がよく見られた。その都度、教師がじっくり聞いたり、言葉で言えるよう促したり、具体的な言い方を伝えたりしてきたことで、幼児も思いを言葉で表すことができるようになってきている。また、言葉で表せるようになったことで、自分と相手の思いの違いなどを知り、相手の気持ちに少しずつ気付くようになってきた。しかし、気づいた後、どうしていくといいのかという部分では、まだ教師の丁寧なかかわりが必要であった。</p> <p>・ 担任・副担任が連携しながら、4・5歳児が自然にかかわりあって遊べるように環境を工夫したり、その都度、遊びを見直したりして、異年齢での交流をより大切にしてきた。自ら選んでする活動でも自然と遊ぶ姿や降園後も4、5歳が混じり合っただけでそれぞれの家庭に遊びに行く姿が見られるようになり、その中で5歳児が4歳児を思いやったり、4歳児は5歳児に憧れを持ったりする姿が見られた。</p> <p>・ 地域の行事に計画的に参加したり、園内の行事の中で地域の様々な方々と交流したことで、地域の人々から温かく見守られ、大事にされていること（自己肯定感）を感じ高めることが出来た。しかし、交通量が少ない地域の利点を生かして、近くを散歩するなど地域に出向く工夫をしたい。</p>	
重点 3	健康な心と体づくりを推進する。	3
成果と課題	<p>・ トッチホールやリレー、鬼ごっこなどで全身を動かしたり、発達や幼児の姿に合わせて、雨天時に、テラスにトランポリンや平均台や積み木を組み合わせた環境（ミニサーキット）など設定した。また、みんなで固定遊具や様々な遊びに挑戦するチャレンジタイムをもつことで、遊びを通して、一人一人の運動の能力の向上を図れた。しかし、巧技台や跳び箱など全身を使った運動遊びの取り組みが少なかった。</p> <p>・ 生活リズムの乱れから、朝食を食べずに登園したり、日中、眠かたりする幼児の姿が時々見られた。生活リズムを整えることや、気持ちの良い一日を送るために保護者も一緒に挨拶を自らすることなどの大切さをもっと知らせて行くために、家庭との連携をより密にしていってほしい。</p> <p>・ 収穫祭で、自分達が育てた野菜を使ってクッキングすることのねらいを見直すことで、食べる楽しさや意欲が高まると共に、食の幅も広がってきた。その上で、野菜づくりの経験やクッキングの経験からいつも食べ物への感謝や作ってくれる人への感謝の気持ちも育ち、幼児の心が少しずつ豊かになってきた。</p>	

## 2 改善方針

### 【重点1】

・教師と一緒に遊びを楽しむ中で、よりみんなで楽しく遊ぶためにどうするといいかを幼児に考えさせる場面を持ったり、自分達で試行錯誤して遊べるようなことを提案して、一つの遊びを発展させたり、集中して取り組んだりできるようにしていく。

### 【重点2】

・一人一人の気持ちを受け止め、認めることで、安心して思いを出せるクラス作りに努め、自己肯定感を高めていくようにする。また、生活や遊びの中で、幼児同士で思いを伝え合い、一緒に問題を解決していくような場面を多く持っていくよう教師が意識していく。

・計画的な園外保育を実施する。また、地域の様々な年代の人との繋がりを通して、人に対する親しみの気持ちと人とかかわる力を育てる機会を大切できるよう、小学校や中学校とも計画的な交流を考えて行く。今年度は行事以外での遊び会との交流が少なかったため、自然な形でのかかわりを持てるような環境を工夫していく。

### 【重点3】

・全身運動を促すためにも、体づくりや体幹を鍛えられるような遊びを工夫していく。また、歩く力をつけていくことも意識して、園外保育を計画的に取り入れていきたい。

・たよりなどで保護者に生活リズムや挨拶の大切さを啓発していく。

・個人差も考慮して、それぞれの幼児の姿はもちろん、登園時や降園時の保護者との会話から家庭の様子なども把握できるように努めていく。



【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立桜幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	遊びを通しての学びの充実	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 幼児の発達や興味に応じた遊びを十分体験することができた。</li><li>・ 一人一人の発達を把握し、必要な支援を考え幼児に豊かな経験を実施することができた。</li><li>・ 遊びで使う道具を分け合ったり、ルールのある遊びを友だちと楽しんだり、幼児同士でどのようにするとよいか考え遊びを楽しむ姿が見られた。</li><li>・ 困難な活動を避ける傾向の幼児を粘り強く誘い、繰り返し経験することで成功体験を味わうことができた。</li><li>・ 砂場の道具や三輪車など、はじめはたくさん用意しておいたが、少しずつ数を減らすなど発達や状況に応じて対応することができた。自然物を使用した遊びも楽しみ、幼児の固定された観念を開放し、柔軟な発想を引き出す役割を果たせた。</li><li>・ 環境構成については4・5歳児それぞれの発達に合った環境、季節や幼児の興味・関心に応じた積極的な構成を実施したい。</li><li>・ 一人遊びを好む幼児や大人との関わりを求める幼児に対して機会を見つけて友だちとつながれるように試みたが難しさもあった。</li></ul>	
重点 2	健康な身体づくり	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 栽培した野菜を活用しての収穫祭や給食で食への関心が高まり、少しずつ偏食の改善につながった。エプロンシアターや紙芝居を見る活動を通して食べることへの意欲や興味関心につなげることができた。</li><li>・ 外で遊ぶことに興味の薄い幼児に対して、全体活動の中で取り入れることで、体を動かすきっかけを作り、興味を高めることができた。</li><li>・ 戸外活動の時間を多くもち、ボール遊び、鬼ごっこ、リレー等全身を動かす集団での遊びを十分楽しむことができた。</li><li>・ 固定遊具を丁寧に指導することで、幼児の意欲を引き出し、繰り返し継続して活動することができた。</li><li>・ 計画的に園外に出かけ、季節の自然を感じられるようにしたが、夏と冬は健康面で難しかった。</li><li>・ 体操やリズム表現を教育課程に位置づけることはできたが、幼児自ら身体を動かす楽しさを実感するまでには到らなかった。</li></ul>	

重点 3	豊かな人間性とコミュニケーション力の育成	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園・進級当初から日常的に異年齢とのふれあい交流を取り入れ、安定した気持ちで園生活を送ることができた。</li> <li>・自分の気持ちを出しやすい環境を作ること、友だちと意見を出し合う姿がみられた。しかし、相手の気持ちを考えず自分の気持ちだけを言う姿も見られたので、相手の気持ちも考えられる仲間づくりを目指した。</li> <li>・触れ合う場面では中高生や地域の方々の方々の人数に驚くこともあったがいろいろな人とつながり、接し方を学ぶ良い機会となった。園の前を通る方にも元気よく挨拶ができた。</li> <li>・4歳児には相手の話に耳を傾ける力がつくように、5歳児には相手に伝えようとする力がつくように関わり、一人一人につけたいコミュニケーション力に対して、丁寧な関わりをすることができた。</li> <li>・遊びの中で『いれて』『かして』『いいよ』とやりとりをし自分の思いを伝えたり、相手の思いに気がついたりできるようになった。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・混合園であるため、同じ環境・保育室の中で過ごすことが多く、互いに刺激し合う面でメリットがある。その一方で、4・5歳児それぞれの発達に合った経験や、そのための環境設定は工夫が必要であると感じる。保育室の活用を協議しながら、4・5歳児の発達保障をし、教師の援助の在り方について引き続き考えていきたい。</li> <li>・個々の経験や発達の違いはあるが年間を通して、体を動かして遊ぶ機会を多く持つことができた。しかし、やってみようと自ら意欲的に活動する姿にはつながりにくかったと思う。幼児自身が積極的に活動し、困難な事にも粘り強く取り組めるよう環境構成や教師の働きかけなどについて研鑽を積みたい。</li> <li>・コミュニケーション力は遊びを通して、友だちと関わる中で培ってきた部分が多い。場面によってどのような言葉で相手に伝えるとよいか考えていく力を、家庭とも連携しながらつけていきたい。</li> </ul>
--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 常磐中央 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	<b>確かな学力の定着</b> ・遊びを通して総合的に学べる環境構成・幼児の興味・関心・意欲につながる環境構成を進める	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の興味・関心に合わせた環境づくりを心掛けることで、「やってみよう」と挑戦する姿や意欲につながった。それぞれ課題を見極めることが難しく、後手に回ってしまう事も多かった。幼児が何に困っているのかを見る力を養っていききたい。</li> <li>・支援が必要な幼児が意欲的に楽しく課題を克服していくことができるように手立てを考えたり、視覚的環境を整えることができた。</li> <li>・見過ごしがちな幼児の支援の工夫が足りなかった。</li> <li>・戸外遊びを苦手とする幼児が多くいたが、教師も戸外で元気に遊ぶことで興味・関心がわき、挑戦し達成することで楽しさを感じることができ、豊かな体験につながった。</li> <li>・跳び箱や大型トランポリンなど、教師が傍につく必要がある遊具は、環境提供のあり方を今後考えていく必要がある。</li> <li>・幼児の興味・関心を先取りしてしまったり、維持していくことの難しさを感じた。</li> </ul>	
重点2	<b>豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成</b> ・安心して過ごせる環境・クラス作りを進める。 ・基本的な生活習慣や規範意識を身につけ「きく力」「話す力」「考えて行動する力」を育てる	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣やコミュニケーション力を育むには、幼稚園での生活だけでなく、家庭との連携や協力の大切さも感じた。</li> <li>・自分の話をじっくりと聞いてもらえるという経験ができるように、一人ひとりの話を落ち着いて聞くというかわりを大切にしてきた。聞いてもらえるということがわかると、少しずつ落ち着いていく姿が見られるようになった。</li> <li>・生活習慣面では声かけをしても見届けないと、雑になったり、次何をすべきか考えられない姿が見られる。教師がモデルとなったり、ともに考えるかわりが必要と感じた。</li> <li>・日常におこる問題を見逃すことなくつかみ、自分の思いを伝える、相手の気持ちに気付く、どのように解決したら良いか等を日々意識して考えられるように取り組んだ。そのことで、幼児自らが気づき、考えられるようになってきた。</li> <li>・友だちのことをよく知り、言葉や態度で相手を思いやる気持ちが育った。</li> <li>・幼児の気持ちや考えをよく聞くように努めてきたことで、話す意欲につながった。</li> <li>・一人ひとりの幼児と向き合う時間を大切にしたり、職員間で話し合いながら幼児の特性や実態に合った保育ができるように心がけてきたので、登園すると安心して好きな遊びを楽しむ姿が見られた。</li> <li>・一人一人の幼児と向き合うことを大切にし、教師から積極的にかかわりを持つようにした。対応できないときは職員間で連携を取って幼児とのかかわりを深め、安心して登園する姿や自分を出せる姿につながったと思う。</li> </ul>	
重点3	<b>健康・体力の向上</b> ・様々な活動を通してしなやかな身体を作る ・身体を動かして遊ぶことが好きになるような環境作り、教材の研究を進める	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室やホールでトランポリンやサーキットを設定することで、身体を動かして遊ぶ楽しさを知り、自ら伸び伸びと戸外で遊ぶ姿が見られるようになった。</li> <li>・体幹が弱かったり、体の使い方が不器用な幼児もいるので、幼児が興味を持って楽しめる運動遊びや環境を今後も工夫していく必要を感じる。</li> <li>・園外へ散歩に出かける機会をもったり、徒歩通園を呼びかけたりすることで、幼児の体力の向上を目指していきたい。</li> <li>・できることには挑戦するが、苦手なものは避ける幼児の姿があった。何度も挑戦したらできたという経験が大切だと感じた。</li> </ul>	

重点4	<b>学校教育力の向上</b> ・保幼小中の連携を図り、教育活動の実践を図る	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開保育や保幼交流では、子どもの姿を伝えあうことができた。今後も、保幼小中でしっかり連携を取っていききたい。</li> <li>・幼稚園で大切にしていることをさまざまな場面で伝えることができた。</li> <li>・学びの一体化では、連携を取りながら情報交換をしたり、お互いの思いや大事にしていることを伝えあい、知ることもできた。縦のつながりを今後も大切にしたい。</li> <li>・年長児は小学校で給食体験や一年生交流をしてもらうことで、小学校に向けての意欲が深まった。</li> <li>・今年度から同じ地域にある私立保育園とも交流をし、活動が広がり良かった。</li> </ul>	

重点5	<b>地域とともにある園づくり</b> ・家庭・地域との連携を図り、子育てについて共に考えていく	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で地域性や各家庭の様子を共有し合いながら、保護者への対応をしていくことで関係づくりができた面もあるが、個別に抱えている問題もあるので、より丁寧にいかかわっていく必要がある。</li> <li>・保護者に日々の小さなことでも幼児の姿を伝えることで、家庭からの子育てについての考えや悩みなど相談がしやすい関係を作ることが大切だと思った。</li> <li>・今後、家庭訪問も積極的に行いたい。</li> <li>・幼児の姿を保護者に伝え、成長をとともに考え、喜び合ってきた。一人ひとりの成長を感じているという声が保護者から聞かれた。</li> <li>・地域の人に幼児が自ら進んで挨拶できるようにしていく。</li> </ul>	

重点6	<b>四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進</b> ・四日市のもつ地域資源を教育に活用して、四日市を知ったり、関心を持ったりする	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「エンジョイ四日市」の体操を取り入れ、歌詞にでてくる地域のことに興味を持ち、こにゆうどうくんにも親しみを感じることもできた。また、保幼交流でも取り入れることで、同じ地域に住む子ども同士がつながっていくきっかけにもなった。</li> <li>・バスを利用し、消防署やプラネタリウム、博物館へ出かけることで、全園児が施設見学を行い、四日市の地域資源や特色を知ったり興味を持ったりする機会を持つことができた。</li> <li>・地域に散歩に出かける機会を増やしたり、行事などを通して四日市の良さを伝えたりできるようにしていきたい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣が身に着くよう、一人ひとりに合った、丁寧な指導を大切にしたり、手順を示したりしていく。</li> <li>・体を動かすことでしなやかな動きを身につけ、体力向上につながるよう引き続きさまざまな経験ができるように環境を見直したり、職員で連携をとっていくようにする。</li> <li>・挨拶が自然とできるよう園でも取り組んだり保護者にも啓発したりする。</li> <li>・教師自身も地域のことを知ろうとし、散歩など地域に出かける機会を増やす。そして、歩くことで幼児の体力向上にもつなげていく。</li> <li>・研修の参加や園内での話し合いを積極的に行い、教師それぞれのスキルアップをする。</li> <li>・保護者との会話を大切にしたり、家庭訪問を行ったりすることで幼児のことをより理解し、かかわりや指導へとつなげていく。</li> <li>・幼児の体力向上を目指し、幼児が自らやってみたいと思えるような運動遊びの設定をしたり、興味・関心に合わせて環境を考えていく。</li> </ul>	
--	--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 塩浜こども 園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	遊びに意欲的に取り組む中で、気づいたり考えたりしながら、「生きる力」「共に生きる力」の基礎の育成をはかる。	4
成果と課題	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園内の日常の様々な活動や運動会や発表会といった大きな行事などの場面を通し、思いを伝えたり、行き違いなどの葛藤場面を経験する中で、「友だちや先生と一緒にいると楽しい」「友だちと力を合わせたらできた」という達成感や満足感を味わうことができた。</li> <li>保護者アンケートで、「子どもたちの連帯感が感じられた」「協力する姿が見られてよかった」という意見が多かった。</li> <li>今年度、自園での公開保育をしたり、他園の公開保育に多くの職員が参加したり、人権同和研修や園内研修を行い、各自の保育を多面的な視点で見てもらうことができ、保育実践の研修を深めるとができた。</li> <li>指導主事訪問や教育アドバイザー研修、新採研修を通してのOJT研修を行うことで、保育者の「子どもを見る目」や保育の中で大切にしていけることを学ぶことができ、自分の保育を基本から客観的に見直すことができた。</li> <li>自分の行動を自己抑制できにくい子どもや感情のコントロールができにくい子どもについて、それぞれの子どもの特性を理解することに努め、専門機関との連携を取り、友だちや保育者とともに遊ぶ楽しさをスモールステップで工夫することができた。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら選んでする活動の意義を理解することはできるが、時間的な問題や実践経験の違いが大きいので、系統だった自ら選んでする活動の研修を深め、共通理解をしていきたい。</li> <li>一人一人の子どもの特性を理解し、それにあった支援や活動を展開するための研修し、より深く充実させていきたい。</li> </ul>	
重点2	生活リズムの向上の取組みとして、食育と基本的な生活習慣の確立を重点的に取り組む。	4
成果と課題	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝の体操やマラソンなどの活動を1年間継続して取り組んできたことで、登園時間が早くなり、異年齢交流を自然な形で進めることができ、体力や持久力も向上することができた。</li> <li>野菜栽培では自分たちが育てたい野菜ごとにメンバーでグループを作り、そのグループで成長を観察したり、収穫した量や数を記録したり、その野菜を給食調理員さんの協力でいろいろな給食のメニューに使ってもらうことで食育の活動として成果を実感することができた。</li> <li>5歳児は「今日の給食の食材（食育）ボード」を毎日順番に担当し、食材の名前を覚えたり、栄養素について知ったりすることで、給食に興味を持ったり、いろいろな食材を食べようとする意欲が高まった。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は異年齢交流がの回数が昨年より少なかった。次年度は園内で相談して、計画的に実施し、交流の回数を増やせるようにしたい。</li> <li>基本的な生活習慣の確立がなかなかできていない子どもも多いので、子ども一人一人の姿を把握し、確実に基本的な生活習慣が身に付くように励ましたり見届れたり、自分の体の健康を守る力を身につけるための具体的な指導の在り方や、環境の工夫の仕方を園内研修等で確認していきたい。</li> </ul>	

重点3	保護者・地域に幼保連携型認定こども園についての理解を深めてもらうための情報発信を具体的におこなう。	4
成果と課題	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園行事や保育参加などの場を通して、また、地域や老人会などの行事に参加する中で、子どもたちの育ちを保護者や地域の方々に見てもらうことができた。</li> <li>・保育参加や園の保護者研修会や懇談会を通して、遊びの中で育つ力や集団の中で共に育つ大切さを伝えることができた。</li> <li>・塩浜中学校区の学びの一体化研修に園長や担任が参加することで、園の子ども姿を伝えたり園の取組みを具体的に発信することや就学後の子どもの様子を情報収集することができ、園児や児童、生徒の共通理解を深めることができた。</li> <li>・園日より、クラス日より、HPなどを通して、広く情報発信をし、園の保育教育活動を理解してもらえるよう取り組むことができた。</li> <li>・年数回の保護者向けアンケートを通して、保護者の感想や要望を園の取組みに生かすことができた。また、アンケート結果を全員に配布することで園の方針を理解してもらおう一助にすることができた。</li> <li>・日々の保育の場面をホワイトボードで紹介したり、写真を使った貼り出しを保護者や来園者の読みやすい場所に掲示したり、各クラスの廊下の作品掲示板に毎月の作品の展示を行うとともに、作品製作のねらいや子どもたちの発達がよくわかるように解説を掲示することで保育内容をより理解してもらえるように工夫した。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園の保育教育ビジョンを掲示するだけでなく、保護者にわかりやすい形で園の保育教育を発信する方法を考える。</li> <li>・アンケートの回収率が今年度は毎回60パーセント前後だったので、保護者の意見をより多く求められるようアンケートの意図を理解していただけるような内容や回収方法を考える。</li> <li>・一体化園として十数年の歴史があるため、在園する保護者にとっても「こども園」というものを理解することが難しい場面が多いので、こども園の特性をわかっていただく方法を模索する。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>○入園式や保育参加、懇談会、講演会などの場を活用して、「こども園」や「園のビジョン」の説明やアピールをして保護者に園の保育教育の理解を深めてもらう。</p> <p>○「幼保連携型認定こども園」の理念を全職員で確認し、教育ビジョンや「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を共通理解するための会議や研修を持ち、保護者や地域に説明できる力をつける。</p> <p>○全職員が各クラスの子ども一人一人の発達や特性を理解し、その時期にあった環境設定や保育教育活動に必要なスキルの獲得を行う。</p> <p>○園医、歯科医、薬剤師、給食調理員と連携を取り、子どもの健やかな育ちを保障するための情報発信を子どもや保護者に行う。</p> <p>○今年度、園内外で行われた各種研修の還流報告を園内研修で行うことができたが、次年度はより有効な還流報告の在り方を工夫する。</p>
---

【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 笹川中央 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	生活習慣を身につけ、健康な体をつくる	3
成果と課題	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師から積極的に元気よく挨拶をしたり、手洗い・うがいの絵表示を活用し、声かけをしたりしてかかわってきた。挨拶については、保護者評価で『自分から挨拶ができる』の項目で、A「そう思う」と回答した割合が昨年度の52%から68%になり、高くなった。</li> <li>・教師が率先して戸外に出て、鬼遊びやボール遊び、縄跳びなどをすることで、幼児も楽しんで取り組むことができた。保護者評価で『戸外で遊ぶことが好き』100%『体力がついた』97%と評価が高かった。</li> <li>・食育では、栽培・収穫・味わうという共通の体験から、素材に触れる、見る、匂うという五感を通した学びにつながり、幼児の喜びや発見が多くみられた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い・うがいなどの生活習慣や生活リズムの定着には、課題がある。家庭とともに取り組めるよう、啓発に工夫が必要である。</li> <li>・幼児の姿や時期を考慮し、計画的・継続的にサーキット遊び、園外保育の実施を考える必要がある。</li> </ul>	
重点 2	互いを認め合い、温かい人間関係を育てる	3
成果と課題	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は、幼児のそのままの姿を肯定的にとらえ、表情や言葉で認めるかかわりをしてきた。幼児は、気持ちを受け止めてもらう心地よさを十分に感じ、自分から気持ちを表現できるようになってきた。教師だけでなく、幼児同士で認めてもらう経験も増え、自尊感情が高まり、相手を思う気持ちが育ってきた。</li> <li>・互いを認め合う大切さを感じられるよう、絵本を積極的に活用し、豊かな心情を育むことができた。また、絵本の魅力や読み聞かせのよさを、参観日などを通して家庭にも啓発することができた。（保護者評価「絵本が好きになった」A、92%）</li> <li>・異年齢交流を多く持ったことで、憧れの気持ちや思いやりの気持ち、自分の成長を感じることができ、自信につながった。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も教師は固定観念を持たず、幼児の表現を柔軟に受けとめる姿勢でかかわっていく必要がある。</li> <li>・引き続き、いろいろな人とのかかわりを通して、つながるきっかけとなるような場や環境作りが必要である。</li> </ul>	
重点 3	豊かな生活体験をし、聞く・話す・伝える力をつける	3
成果と課題	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4歳児では、安心して過ごせるように一人一人に寄りそい、気持ちを受け止めてきた。周りの幼児に興味を持ち、かかわって遊ぶ姿が見られるようになった。5歳児では、自分で主体的に考え行動できるように、グループ活動、クラス活動、園全体というように、いろいろなかかわり方ができる環境を積極的に作ってきた。友だちの意見を聴きあう、考え合うという気持ちが育ってきた。</li> <li>・豊かな生活体験ができる環境構成については、幼児が考えた遊びを大切にとらえ、興味に合った環境構成を展開していくことがおおむねできた。（保護者評価「生活体験が増えた」A、92%）</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを言いたい気持ちが強く、話す力はついてきたが、聞く力は今後も取り組みが必要である。教師のわかりやすい話し方、幼児の聞く姿勢保持、聞きやすい環境を工夫し、園全体で指導を考えていく。</li> </ul>	

重点 4	支え合い協力して取り組む保護者・地域・教職員	3
成果と課題	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に対しては、ホワイトボードに日々の活動やねらいを書いたり、送迎時に見やすい場所に写真掲示をしたり、子どもの様子を伝えながら成長を一緒に考え合えるように心がけてきた。写真を見ながら、保護者同士も園の様子の感想など話し、安心している姿もあり、つながるきっかけになった。</li> <li>・保護者評価「園の生活や遊びが楽しい」の項目で、A評価が100%だった。</li> <li>・地域とのつながりでは、遊び会の保護者や乳幼児に積極的に声をかけ、在園児とも自然な形で交流できるようにしてきた。地域の方、保育園・小学校・中学校と、それぞれ交流の機会を通じ、幼児にとって様々な体験をすることができた。地域に見守られている温かな気持ち、感謝の気持ちを感じることができた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も保護者と話すことを大切に、不安や悩み、思いを聞き、受け止めることを第一にしていく。子どもを中心に、子どもの育ちを一緒に考えていけるようにしていく。</li> <li>・引き続き職員間で連携を取り、幼児理解を深め、共通理解をし、一人一人にかかわっていく必要がある。支援において同じ方向性を持つよう、取り組んでいく。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p><b>重点 1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムの定着にむけて、幼児にわかりやすいように保育室内に生活リズムの絵表示を掲示したり、保護者向けに生活リズムの標語を定期的に掲げ、おたよりなどで知らせたりする。</li> <li>・園外活動やサーキット遊びを計画的に取り入れ、園生活の中での発達を考慮し、学期ごとに見直していく。</li> </ul> <p><b>重点 2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常にある幼児のつぶやきを敏感にキャッチし、一人一人が思いを出せているか、思いが出しやすい環境であるか、振り返りを大切に、思いを出せる場作りを工夫していく。</li> </ul> <p><b>重点 3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞く力を養うには、どういうことが必要であるか、研修を深めていく。話し手の顔を見る、体を向ける、終わりまで聞く、など、具体的な指導方法を考え、実践していく。</li> <li>・一人一人が豊かな経験ができるよう、視覚支援の工夫をしていく。</li> </ul> <p><b>重点 4</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々との触れ合いを通して、自分が大切にされていると感じ、自尊感情が育まれていくと考える。今後も地域の方とのつながりを大切にしていきたい。</li> <li>・遊び会の参加者が年々減っているので、在園児との交流のもち方など、園としての工夫をしていく。</li> <li>・職員間での共通理解について、それぞれの職員が報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）を意識する。協力体制の気持ちをそれぞれが持つ。</li> </ul>
--



【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 三重西 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点 1	基本的な生活習慣の定着	3
成果と課題	<p>○自分のことは自分でする態度の育成について 園生活の中で現状を把握し、個々に合わせて、自分でできるように援助してきた。家庭にも啓発をして連携をとりながら進めている。</p> <p>○生活リズム・生活習慣について 生活リズムは、ほとんどの幼児が身につけている。登園が遅かった幼児は保護者と連携することで、早く登園できるようになってきた。手洗い・うがいなどは、丁寧に声をかけることでできるようになった。歌に合わせて手洗いすることで丁寧にできるようになった。生活リズムの確立や生活習慣の定着のために、家庭との連携を引き続き進めていきたい。</p> <p>○食育活動の推進について 栽培活動を通して、食べた経験のない食材に触れることができ、食べる意欲を育てることができた。朝食の大切さの啓発は今後の課題である。</p> <p>○歩く経験の重視について 計画的に園外保育に出かけ、距離を伸ばしていくことで、歩く力がついた。</p>	
重点 2	遊びの中で人間関係を育む活動の充実	4
成果と課題	<p>○混合クラスで生活することで相手の思いを推し図って声をかける姿やあこがれの気持ちをもつ姿がみられるようになり、異年齢のつながりが深まった。</p> <p>○遊びを工夫することで集団を確保したり、いろいろな遊びへの興味が広がり、集中して遊べるようになってきた。今後も教材研究を進めていきたい。</p> <p>○自分の思いを話すことが楽しいと思える機会として、クラスみんなの前で話す機会をもつようにした。友だちに聞いてもらうことで、話すことが楽しいと感じるようになった。</p> <p>○自分の思いを友だちに伝えられるようになってきた。一方では、トラブルが少ないため、トラブルになった時に自分の思いを出しにくい姿がみられる。自分とは違う友だちの思いに気づいたり、友だちと折り合いをつけたりする経験を今後も繰り返し積み重ねていきたい。</p> <p>○教師間の連携を密にし幼児の共通理解することで、一人一人に応じた丁寧なかかわりができた。</p> <p>○混合クラスの各学年の関係性を見極め、環境や支援を考えていく必要がある。</p>	
重点 3	家庭や地域・小学校・中学校と連携した園づくり	3
成果と課題	<p>○地域や小・中学校との交流は、年間を通して計画的に定期的な交流が行われた。内容については園児の様子に応じて考えていきたい。小学校と隣接しているよさを生かして自然な形での交流を工夫したい。</p> <p>○遊ぶ会の充実について 園児との交流を計画的に行った。一緒にフォークダンスや体操をしたり、歌を歌ったり、栽培物の収穫をしたりした。園児にとっても刺激になり、来年度につながっていく経験となった。</p> <p>遊ぶ会に参加する親子の人数が減少傾向にある。おたよりなどを通じて地域に発信しているが、変わらない状況である。今後も方法を模索し発信していきたい。</p> <p>○親子での絵本の読み聞かせ、絵本の貸し出しの機会を定期的に持つようにし、絵本を季節の行事や子どもの気持ちに気づける絵本を紹介したりして、保護者との連携を深めるきっかけになった。</p>	

### ①基本的な生活習慣の定着

・栽培活動では、食べたことのない食材に触れる機会となった。来年度も継続して栽培活動をし、食育活動を推進していきたい。

・今年度は計画的に園外へ出かけたことで、歩く力が身についた。さらに、季節の変化にも興味を持ち、遊びの中で木の実や葉っぱを使う姿も多く見られた。来年度も継続し、楽しみながら体力向上を図りたい。

・戸外の活動を充実させたことで、体を使って活発に遊ぶ姿が見られるようになった。来年度はさらに、様々な体の動きが経験できるよう、遊びの充実を図りたい。

### ②遊びの中で人間関係を育む活動の充実

・来年度は今年度よりも園児数が減るので、近隣園との交流を進め、いろいろな友だちとの触れ合いや大きい集団の経験ができるようにする。また、各学年の育ってほしい姿を明確にし、学年ごとの育ちを保障していきたい。少人数だからこそ、子どもたちが話し合い自分たちが決める機会をたくさん持ち、少人数の良さを大切にしながら保育をしていきたい。

### ③家庭や地域・小学校・中学校と連携した園づくり

・地域との交流については、今後も園児の状況に応じて内容や参加の仕方を地域と相談していく必要がある。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 楠北 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	基本的な生活習慣の自立（自立）	3
成果と課題	<p>《挨拶の推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師から積極的に名前を呼び、目を合わせて笑顔で挨拶するようにした。幼児同士や、地域の人にも挨拶する姿が増えた。しかし、教育ビジョンアンケートの「自分から日常のあいさつができるようになりましたか」の項目で、8%の保護者が「あまりそう思わない」と感じていると分かった。今後も保護者と共に、進んで挨拶や返事ができるように生活の中で意識し定着を目指したい。</li> </ul> <p>《早ね早起き朝ごはん》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園だよりで9時までの登園の推進、寒い時期は朝のマラソンを実施したが、週末や連休明けは、登園時間が遅くなりがちだった。今後も夏休みのカレンダーや、生活習慣チェックシートを活用し、家庭との連携を図り、生活リズムを整える必要がある。</li> </ul> <p>《自分でする力の育成》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身支度などは、個々の幼児に合わせた励ましや見守りで自分で取り組む姿が増えた。できたことを認め、根気よく取り組むことで、動き出す力がついた。</li> </ul>	
重点2	健康な身体づくり（自立）	3
成果と課題	<p>《食育の推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜や米の栽培活動は、幼児の食への興味が増した。様々な鬼ごっこや、ボール遊びなどの身体を動かす遊びを実施したことで、お腹が空いて意欲的に食べ、苦手な物も食べるようになった。今後も、健康に過ごすために必要な栄養素や食材などを学ぶ機会を設けていきたい。</li> </ul> <p>《園外保育》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方や保幼の交流を通して、地域の施設や田んぼや畑にでかけ、歩く力がついた。例年よりも楠南幼稚園児との交流が増え、機会にも恵まれた。もっと4歳児も、地域を知ったり、自然に触れたり、豊かな体験となるよう計画的に園外保育を実施していきたい。</li> </ul>	
重点3	元気に遊ぶ（学ぶ）力の育成（意欲）	3
成果と課題	<p>《意欲を引き出すかかわりの工夫》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児一人一人に十分にかかわり、安心感をもって生活を送れるように努めた。できないことや不安なことに消極的な幼児の気持ちを十分に理解するよう努め、様々な事に精一杯取り組む姿を認めてきた。少しずつ達成感や充実感を味わうことができた。</li> </ul> <p>《意欲的に遊ぶ環境づくり》</p> <p>《豊かな遊びや活動の展開》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、学年ごとでの園内研修を通して、どのような環境が大切であるかを研究してきた。日々の保育は、幼児の興味や関心に合わせ、教材を準備し、様々な遊びを展開できるように努めた。教育ビジョンアンケートでは「遊びを試したり工夫したりして遊びますか」の項目で、4、5歳共に60%以上がそう思う、100%がおおむねそう思う以上の評価を頂いた。</li> <li>・地域の方の力をお借りして、発砲スチロールでの米栽培と、のこぎり鎌での稲刈りを行った。今年度は地域の方の田んぼの稲刈り体験をさせて頂き、園だけではできない豊かな教育実践となった。しかし、行事が多くなると、遊びや活動が途切れがちになった。今後は、さらに幼児が遊び込め、豊かな学びにつながる遊びや活動を全職員で積極的に研修して進めていきたい。</li> </ul>	

重点4	豊かな心・思いやりの心の育成（協同）	3
成果と課題	<p>《安心してすごせるクラスづくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「話す力」「きく力」「考えて行動する力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す力」は、教師が幼児の思いをじっくり聞くよう努めたことで定着した。しかし、環境が変わると自己表現ができない姿も見られる。幼児が気持ちや考えを話す機会を積みあげることが必要である。「きく力」はビジョンアンケートでも「人の話を聴こうとしますか」の項目で「そう思う」の割合が40%台と全項目の中で最も低く課題が明確となった。幼児が話を聞く環境や、教師の話し方を工夫する必要がある。</li> </ul> </li> <li>●伝え合い、共感し合う活動、自分から動き出せるかかわりの工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のどんな場面でも幼児の話を聴いて寄り添う姿勢と、周りの幼児へ返す取り組みは、幼児への影響が大きい。幼児同士が「どうしたの」と気にかけて声をかける温かいかかわりが見られるようになった。</li> </ul> </li> <li>●友だちと一緒にする楽しさ、やり遂げる遊び、活動の展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々がじっくり取り組む遊びと、みんなでする遊びとのバランスを考えながら、年齢に合わせて計画し進めた。友だちとかかわる心地よさや、気持ちを伝え合って遊ぶ楽しさや、目的をもって最後までやり遂げる達成感を味わうことができた。</li> </ul> </li> </ul>	

重点5	地域・保護者やとの連携と協働	4
成果と課題	<p>《何でも話せる関係づくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と幼児の様子を伝え、一緒に喜び、考え合えるように心がけ、心配に感じていることを話せる雰囲気づくりに努めた。保護者の思いや願いを職員間で共有するには、アプローチの方法や伝え方などを検討しながら、全職員で連携を図り考えていく体制づくりが必要である。</li> </ul> <p>《子育て支援や情報発信》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弁当交流などを通して、園児と未就園児の交流ができた。しかし事前連絡が十分でなく参加人数が少なかった。今後は、ポスターだけでなく遊び会便りなどを発行し、情報発信方法を工夫する必要がある。</li> </ul> <p>《地域との連携、地域の人と協働した活動の充実》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々とさつまいもの栽培、収穫と収穫祭、米作りと稲刈り体験などに取り組み、活動が充実した。幼児が地域の人を知り、親しみの気持ちをもち自らかかわっていく姿へと成長した。協働するためには、地域の方々の願いや思いを聞き取り、協議しながら進めていく必要がある。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培計画の作成 食育活動とのつながりを明確にし、年齢ごとの取り組み内容を明記していかしていく。</li> <li>・園外保育計画書の作成 年度初めに各年齢で年間計画を作成し、月毎に実施記録を残して見直しを図る。</li> <li>・園内研修の充実 月案、週案の作成、見直しを進め、活動内容、環境構成について話し合い共有する。 園内で保育公開を行い、自らの保育の見直しをする。</li> <li>・行事の精選を進める 地域と連携した行事を、園の教育活動とつなげられるような方策を職員間で考慮し、幼児の遊びが途切れることのないよう工夫する。</li> <li>・「きく力」の育成を重視した取り組み 幼児一人一人との会話のやり取りを大切にしかかわり、話をする、聴く心地よさを感じ、伝えたい、知りたいという気持ちを培う。また、教師の声の強弱、メリハリ、伝え方に工夫をして、分かりやすい表現に努める。幼児が話をしている人の顔を見たり、聴いている時は最後まで聴くことを習慣づけていく。保護者にもその方策を知らせながら、家庭でも意識してもらえるようにする。保幼で園の取り組みや課題を共有し合い、交流の中で「きく力」の育成に向けた活動を意識して計画し、共に進めていきたい。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 楠南 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	基本的な生活習慣の自立（自立）	3
成果と課題	<p>〈あいさつ推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・楠北幼稚園・くす南保育園の友だちや地域の人出会う中で「こんにちは」と挨拶をしたり、触れ合ったりする機会がたくさん持てるようになってきた。</li><li>・日常生活の挨拶「おはようございます」「こんにちは」「ありがとう」等を教師が日々発していくことで、幼児からも人に出会うと声をかける姿がでてきた。</li></ul> <p>〈早ね・早起き・朝ごはん〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・家庭と連携を密にし、規則正しい生活を送ることができた。</li></ul> <p>〈自分でする力の育成〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・幼児の成長段階に合わせた支援を行い、自分でできることをやってみようとする意欲が見られた。今後も、子どもの力を信じながら、保護者と共に温かく見守ったり、励ましたりして子どもの意欲を育てていきたい。</li></ul>	
重点2	健康な身体づくり（自立）	4
成果と課題	<p>〈食育の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・栽培活動を通して「育てる」「収穫する」「調理する」等の活動に積極的に取り組むことができた。保護者と共に食育体験を行い、知らせてきたことで「食べる喜び」「食べられる有り難さ」が生きる意欲や力につながることを確認し合うことができた。</li></ul> <p>〈園外保育〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・毎日地域を歩き、地域の人や友だちに出会う中で挨拶を交わしたり、触れ合ったりする機会が多く持てた。楠の施設や公園等に出かけ、楠の町を知ることができ、時には、自然物等と触れ合う機会が持てた。</li><li>・歩くことで姿勢・体幹等が少しずつ整っていき、体力をつけていくために今後も取り組みを推進していく。</li></ul>	
重点3	元気に遊ぶ（学び）の力の育成（意欲）	4
成果と課題	<p>〈意欲的に遊ぶ環境づくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・幼児の興味・関心を知り、自然な形で体を動かす活動ができるように環境設定を工夫してきた。心身共に安心して園生活を送る中で、幼児が興味を持つことで、自ら動き出せる環境づくりを進めていく大切さを感じた。</li></ul> <p>〈意欲を引き出すかかわり〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「今、何に興味があるか」を幼児のつぶやきを聴き、行動をしっかりと把握するように努めてきた。教師が、周りの変化や状況に気付き、興味のあることを声に出して知らせてきたことで、興味・関心が広がり、意欲につながる姿も増えてきた。</li></ul> <p>〈豊かな遊びや活動の展開〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・楠北幼稚園・くす南保育園の集団の中に入る機会を積極的に設けることで、友だちの動きや言葉に関心を持てるようになってきた。遊びや人への関心にはつながったと思われるが、少人数のため遊びの継続や展開は難しかった。</li></ul>	

重点4	豊かな心・思いやりの心の育成（協同）	3
成果と課題	<p>〈安心して過ごせるクラスづくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「話す力」「きく力」「考えて行動する力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師に自分の思い浮かんだ言葉を安心して話せる関係づくりを大切にしてきた。また、保護者にも話す喜び、声をかけられるうれしさを伝えてきたことでより、楽しんで話す姿が増えた。</li> <li>○伝え合い、共感し合う活動。自分から動き出せるかかわり工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が、幼児の「今、感じている事」を周りの人やかかわっている友だちに伝え、気持ちを知り合える機会をつくってきた。人との交流の中で相手の気持ちを互いに感じながら、声をかけたり、ふれあうことができた。</li> <li>○友だちと一緒にする楽しさ、やり遂げる遊び、活動の展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・楠北幼稚園・くす南保育園の集団の中に入り、幼児同士がかかわり合う保育展開を工夫する中で、一緒に過ごす心地よさや楽しさが感じられるような取り組みを進めてきた。いろいろな友だちと触れ合うことで、たくさんの経験や人とかかわる楽しさを感じることもできた。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li></ul>	

重点5	地域・保護者との連携と協働	4
成果と課題	<p>〈何でも話せる関係づくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と、登降園時の送迎で、幼児の姿・体調等を細かく伝え合ってきたことで、保護者が安心して幼児を預けられる園づくりを進めてきた。個々に合った伝え方を工夫し、幼児の姿や体調だけでなく、共に成長を喜び合える機会としてきた。</li> <li>〈子育て支援や情報発信〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び会を週一回行い、地域に住む保護者同士の交流の場となった。また、在園児と未就園児が触れ合う機会にもなり、乳幼児期に人と触れ合う心地良さや大切さを保護者が感じる機会となった。</li> <li>〈地域との連携、地域の人と協働した活動の充実〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域から竹をいただいたことで、自然物を使った遊具をつくることができた。温かい地域の中で育つ喜びを、保護者と共に確認し合うことができた。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修や指導主事訪問・アドバイザー訪問等を通し、保育・教育の進め方について振り返ってきたことで、日々の保育内容を確認することができた。今後、職員間で共有化をはかることで、更に充実した保育展開につなげていく。</li> <li>・今後も幼児の実態に合わせ、近隣園・地域との連携を密に取りながら、年間・月間計画を立て、目の前にいる幼児・保護者が安心できる園づくりに努めていく。</li> </ul>
--